

北海道大学

大学院文学院

2022

Graduate School of
Humanities and
Human Sciences



2022年度 北海道大学 大学院文学院



北海道大学
大学院文学院

Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University

www.let.hokudai.ac.jp

文学院院长挨拶

北海道大学大学院文学院は、前身の文学研究科の蓄積を着実に継承しつつ、加えて新たな学問領域も担うことを目指した、北の大地における人文科学の研究教育拠点です。従来の4専攻を統合再編し、人文学専攻と人間科学専攻の2専攻体制に変えることで、新たな研究領域を創設するとともに、分野間の垣根を越えた研究教育がしやすくなるように生まれ変わりました。

北大文学院の大きな特徴は、思想・歴史・文学などの人文学に属する分野と、心理学・社会学などの人間科学と呼ばれる領域に含まれる分野が、お互いに結びつきながら研究教育が行われているという点です。専門とする分野の高度な教育を享受しつつ、他の専攻に属する分野の授業を受けることにより、自身の研究をより俯瞰的、客観的にとらえることができます。二つの領域が一つ場で共生することによって、新たな可能性の揺籃たることを目指しているのです。

これからの大学院教育で求められるのは、専門分野に関する深い見識を備えると同時に、専門分野以外にも広がりをもつ創造的な視点を育てていくことです。こういった要請に応えるべく、修士課程では大学院としては異色の必修講義科目を設置し、分野横断的な観点から現代社会における諸問題を考察する姿勢を養えるようなカリキュラムを用意しています。また、文学院は北大の他の組織と連携して、今までにはなかった斬新な教育プログラムや取り組みに積極的に関わっています。文系・理系という古い垣根にこだわらない先進的な教育を展開することによって、多角的な視野をもって専門的研究に取り組む研究者を養成します。

さらに、複雑さを極めるこれからの社会において、大学院で行われる高いレベルの教育を受けた人材が様々な分野で必要となってくことに疑いはありません。アカデミックな分野の研究者だけではなく、民間企業や官公庁、教育分野などで活躍する人材を育成することが、大学院の社会的役割として急務となっていると言えます。このような時代的要請に応えるため、「教養深化プログラム」というまったく新しい学びの場を提供しています。諸課題を解決していく上で不可欠な思考力や、自分のアイデアを他の人にわかりやすく提示し、社会に実現していくスキルや能力を身につける貴重な機会となるはずです。

文学院では、大学院生のみなさんが確実に論文や研究課題を完成させることができるように、きめの細かいカリキュラムが整えられています。美しい環境に囲まれた北大文学院で、汲み尽くすことのできない学問という奥深い世界に浸りながら、自らの人間性と教養を磨き、人間が生み出した豊かな文化を継承していく一員となってみませんか。



北海道大学大学院文学院長

藤田 健 ふじた たけし

「文学院」への誘い

CONTENTS

文学院概要

文学院の特徴・履修モデル	03-04
特色ある教育プログラム	05-06
支援制度	07-08

専攻・講座・研究室紹介

人文学専攻	09-12
哲学宗教学講座 哲学倫理学研究室	13
哲学宗教学講座 宗教学インド哲学研究室	14
歴史学講座 日本史学研究室	15
歴史学講座 東洋史学研究室	16
歴史学講座 西洋史学研究室	17
歴史学講座 考古学研究室	18
文化多様性論講座 文化人類学研究室	19
文化多様性論講座 芸術学研究室	20
文化多様性論講座 博物館学研究室	21
表現文化論講座 欧米文学研究室	22
表現文化論講座 日本古典文化論研究室	23
表現文化論講座 中国文化論研究室	24
表現文化論講座 映像・現代文化論研究室	25
言語科学講座 言語科学研究室	26
スラブ・ユーラシア学講座 スラブ・ユーラシア学研究室	27
アイヌ・先住民学講座 アイヌ・先住民学研究室	28
在校生が語る「エルムの森の日々」case 1	29-30

人間科学専攻	31-32
心理学講座 心理学研究室	33
行動科学講座 行動科学研究室	34
社会学講座 社会学研究室	35
地域科学講座 地域科学研究室	36
在校生が語る「エルムの森の日々」case 2	37-38

TOPICS

研究環境	39
関連組織	40

インフォメーション

学生生活	41
入試から入学まで	42
進路・就職	43-44

キャンパスマップ	45
----------	----



文學院の 特徴・履修モデル

文学院は、改組前の組織である文学研究科の思想文化学・歴史地域文化学・言語文学専攻を統合することで人文学の総合的な学びが可能となった「人文学専攻」と、人間システム科学専攻の先端的で豊かな研究環境を継承・発展させた「人間科学専攻」との2専攻からなります。

学際的な人文・社会科学諸分野の学修を通して、俯瞰的な視野から人間と社会をめぐる知を身につけることができます。

- 多彩な11講座20研究室からなる2専攻。100名を超える教員が深く柔軟な学びを支えます。

人文学専攻

Division of Humanities

- 多様な分野を網羅しており、人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶことができる人文学専攻。大学院生のみなさんの「学びたい」気持ちに柔軟に応えるカリキュラムとなっています。

- 考古学研究室、文化人類学研究室、博物館学研究室、アイヌ・先住民学研究室(2019年度開設)では、社会的な関心に対応した多彩な学修ができます。

- スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学など、北海道の地域的な特性を活かした「ここでしかできない学び」があります。

哲学宗教学講座

- 哲学倫理学研究室
- 宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

- 日本史学研究室
- 西洋史学研究室
- 東洋史学研究室
- 考古学研究室

文化多様性論講座

- 文化人類学研究室
- 博物館学研究室
- 芸術学研究室

表現文化論講座

- 欧米文学研究室
- 中国文化論研究室
- 日本古典文化論研究室
- 映像・現代文化論研究室

言語科学講座

- 言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

- スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

- アイヌ・先住民学研究室

詳細は **p.09**

人間科学専攻

Division of Human Sciences

- 人間と社会に関する総合的な学修ができます。
- 大型研究プロジェクトの実績を活かした世界レベルの研究に基づく高度で実証的な学びができます。
- 実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法が学べます。
- 科学的アプローチに基づく人間科学研究の国際的拠点を活かした学びができます。

心理学講座

- 心理学研究室

行動科学講座

- 行動科学研究室

社会学講座

- 社会学研究室

地域科学講座

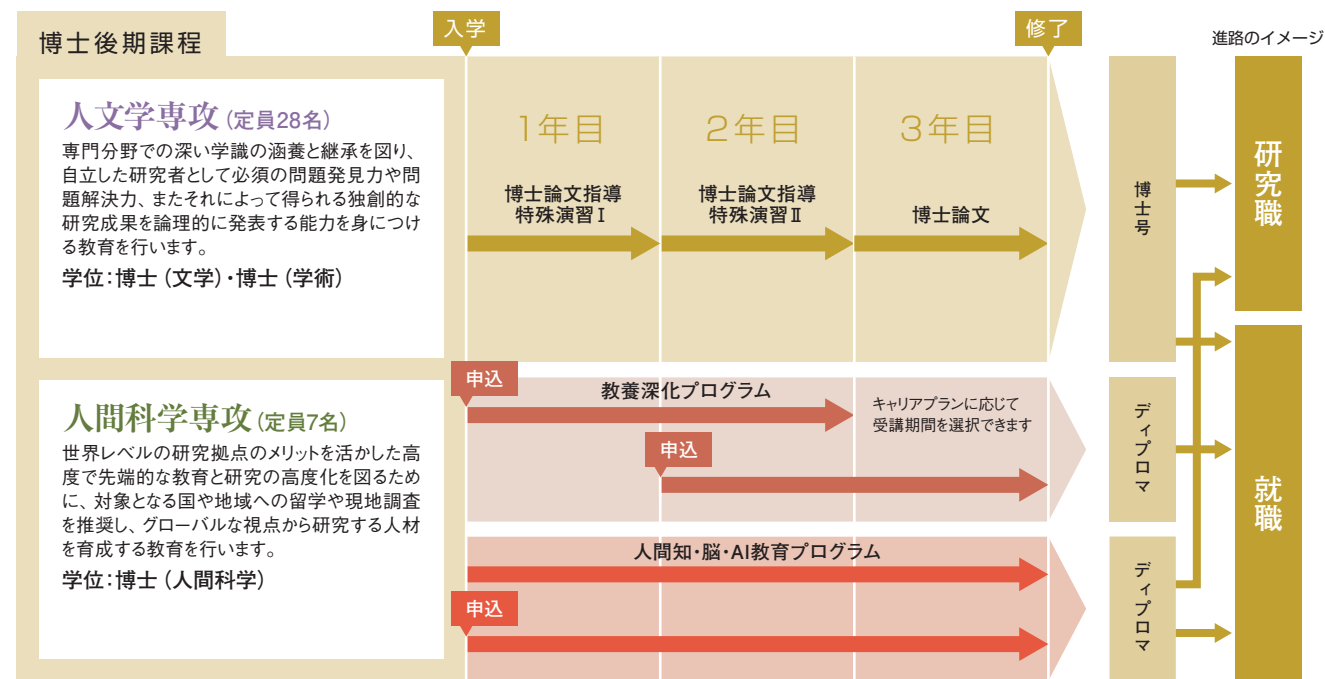
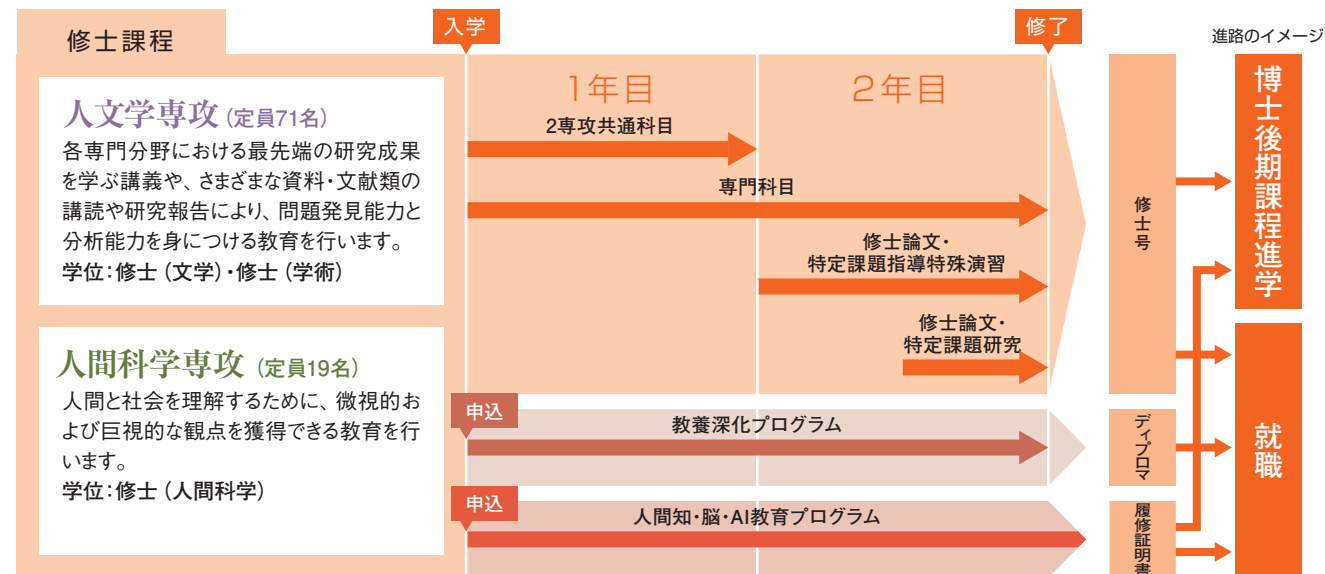
- 地域科学研究室

詳細は **p.31**

- 2専攻共通科目を新設。
俯瞰的な視野で
人文・社会科学を広く学修します。

2019年度より開講している「人文社会構造論」「複合環境文化論」「多文化共生論」「総合社会情報論」「研究倫理・論文指導特殊講義」は、各専攻の所属講座が協力して展開する2専攻共通の授業です。専攻をまたいで人文・社会科学の多様な分野を広く学ぶことを通して、俯瞰的な視野から人間と社会を学ぶと同時に、学際的な研究手法の知識を深めることができます。

- ## ● キャリアプランに応じて必要な学修ができる履修モデル



教養深化プログラム、人間知・脳・AI教育プログラムの詳細は **p.05-p.06**

- ## ● 文学院が目指す人材像

人文学専攻

- 各領域に関わる理論的あるいは実証的な基礎研究、さらに現代社会の諸問題をめぐる研究において、それぞれの研究の方法を身につけ、これまでの研究を適切に理解するとともに、必要に応じて現地調査を含むデータ収集とその処理・分析を的確に行う能力を備えた人材。

- 異文化に対する知識とその深い理解力、さまざまな地域や民族がかかえる現代的課題を具体的に把握する観察力と分析力を基盤とした、高度の専門性を必要とする職業を担う人間としての総合的な能力を備えた人材。

人間科学専攻

- 認知心理学、社会心理学、認知科学、行動科学、社会学、地域社会学、人文地理学、社会生態学に関する専門知識を備えた人材。

- 人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより研究を遂行できる能力を備えた人材。

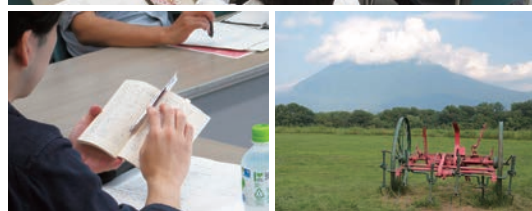
★ 特色ある教育プログラム

教養深化プログラム

高度な専門知識を持った 即戦力人材に成長

教養深化プログラムの受講希望者は、
専門研究を深めていくかわら、
人文・社会科学諸分野の総合的な学修と、
社会で役立つジェネリックスキル^{※1}を学修することにより、
高度な専門知識を有し、社会で即戦力となる人材へと成長していきます。
博士後期課程の学生にとっても幅広いキャリアへの扉が開けます。

※1) ジェネリックスキル
社会人として活躍するための能力のこと。具体的には「知識活用力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク・リーダーシップ」等の社会で役立つ汎用的な能力を指す言葉として使われています。



プログラムの特徴

人文・社会科学の総合的な学修

文学院を含む文系6大学院を横断する学びで「考える力」「書く力」「読む力」「発表する力」「総合する力」のレベルアップを目指します。

文理融合・学際的な学修

数理的思考やさまざまなデータの分析及び活用方法を学修するとともに、自然科学分野の最先端の知に触れることができます。

社会と繋がる実践を重視

人材育成本部、キャリアセンター、CoSTEP^{※2}と連携した実践的なプログラムにより、高度なジェネリックスキルが身につきます。

※2) CoSTEP:北海道大学高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門。科学技術の専門家と市民の橋渡しをする人材を育てる、教育研究組織。

受講の流れ

北海道大学大学院 入学

修士課程 / 博士後期課程

- 文学院 ●経済学院 ●法学研究科 ●公共政策学教育部
- 国際広報メディア・観光学院 ●教育学院 (2022年度から対象を全学の大学院に拡大予定)

教養深化プログラム申込

原則として希望者全員が参加できます

教養深化科目群

[プログラム生限定科目] (10単位以上)

- 教養深化特別演習(基礎・総合)
基礎:多角的に分析し複合的に把握する能力を身につける。
総合:基礎で習得した能力を実践を通じてさらに向上させる。
- サイエンスリテラシー特別演習
数理的思考とデータ処理・活用方法を知り、自然科学研究の最先端に触れ、的確に伝えるスキルを学ぶ。

ジェネリックスキル科目群

[大学院共通授業科目] (4単位以上)

- ジェネリックスキル特殊講義
社会に必要な考え方や実践的なスキル(マーケティング、マネジメント、プレゼンテーション等)を身につける。
- ジェネリックスキル特別演習
第一線で活躍するゲストスピーカーの講演等を通じて、自身のキャリアの可能性を考える。

修了要件を満たすとディプロマを取得 国内外の企業、公的機関等で活躍できる人材に!

人間知・脳・AI教育プログラム(CHAIN^{※3}教育プログラム)

「人間」にも科学技術にも通じた 高度人材に成長

人文社会科学・脳科学・AI研究が交差する地点で
「人間」について多角的に学ぶ文理融合型教育プログラム。
人文社会科学、神経科学、人工知能の各領域を専攻する大学院学生が、
所属大学院を超えて学際的共同研究に参画し、
関連する知識・技能を学びながら、それぞれの専門的知見・技能をも深めていきます。
必要な単位を修得し、研究発表を行った履修生には、ディプロマが授与されます。

※3) CHAIN
Center for Human Nature, Artificial Intelligence, and Neuroscience
人間知・脳・AI研究教育センター



プログラムの概要

プログラム・ベースド・ラーニング

人文社会科学、神経科学、人工知能の各領域の中から、自分の専門としない分野の基礎知識とスキルをコースワークを通して学ぶ。

プラットフォーム・ラーニング

国内外から招へいた第一線の研究者によるSS^{※4}とWS^{※5}に参加。学際的議論を通して研究の最先端に触れ、ネットワーク形成も行う。

プラクティカル・ラーニング

学内外の研究室へのインターンシップ、海外の研究室への研究留学、連携企業でのインターンシップを通して、自ら得た知識・スキルを実地に生かす。

※4) SS:サマースクール ※5) WS:ウィンタークール

履修モデル

修士課程1年から5年間で履修する場合

人文社会系	自然科学系
●修士課程1年目 人間知序論I,II/入門ベジアン・モデリング/ディープラーニング演習/SS/WS	●修士課程1年目 人間知序論I,II/ディープラーニング演習/脳科学入門/SS/WS
●修士課程2年目 脳科学入門/SS/WS	●修士課程2年目 哲学特殊講義/SS/WS
●博士後期課程1年目 国内研究室インターン/SS/WS	●博士後期課程1年目 研究留学/SS/WS
●博士後期課程2年目 研究留学/SS/WS	●博士後期課程2年目 企業インターン/SS/WS
●博士後期課程3年目 SS/WS	●博士後期課程3年目 SS/WS

博士後期課程1年から3年間で履修する場合

人文社会系	自然科学系
修士課程1・2年目 各自専門の修士課程を修了	
●博士後期課程1年目 人間知序論I,II/国内研究室インターン/脳科学入門/ディープラーニング演習/SS/WS	●博士後期課程1年目 人間知序論I,II/哲学特殊講義/研究留学/SS/WS
●博士後期課程2年目 研究留学/入門ベジアン・モデリング/SS/WS	●博士後期課程2年目 脳科学入門/企業インターン/SS/WS
●博士後期課程3年目 SS/WS	●博士後期課程3年目 SS/WS

各大学院での博士号取得と同時に「人間知」のディプロマを取得

本プログラム終了後は、研究者として学際的研究に従事したり、「人間」にも科学技術にも通じた高度人材として企業に就職したりといった道があります。博士後期課程修了者の就職も支援しています。

支援制度

この充実度は北大文学院ならではの 研究キャリアを国際的かつ豊かに積み重ねることができる支援制度

北海道大学大学院文学院には、独自の研究支援制度と豊かな研究環境が揃っています。「国際的な研究キャリアを築きたい」という高い志と、「経済的な負担をできるだけ軽くしたい」というリアルな研究生活事情に応える充実の支援環境を存分にご活用ください。

若手研究者を多角的にサポートしています。

国際学会・全国学会に参加したい

出張旅費支援

「共生の人文学」プロジェクト<Graduate Grant Program>

大学院生の国際学会・全国学会での研究発表に対する旅費を支援しています。「北海道から参加するという経済的な負担を軽減してくれる」と利用者に好評です。資料調査や現地調査に対する旅費支援も行っています。令和2年度より「オンライン開催学会参加費支援」も始めました。

利用者の声

学会発表への意欲を後押し
応募期間と学会開催日を要チェック



言語科学研究室

博士後期課程3年

中村 真衣佳

NAKAMURA Maika

私の専門は言語学です。「子供が溺れかけだ。」のように名詞文でありながら動的な解釈が生じる言語現象に着目して統語論と語用論の観点から研究しています。出張旅費支援制度は修士課程1年の12月に神戸市で開催された日本語文法学会で口頭発表するために利用し、2度目は修士課程2年の3月に東京都内で開催された社会言語科学会に使っています。北海道から全国学会に参加する際に、旅費の心配をせずに学会発表に集中できるというのは大変有り難いことです。おかげで1度目の利用で学会発表した内容を発展させ執筆した論文が、文学院の『研究論集』に掲載されました。

申請の準備は早めに取り掛かることが大切です。年間の応募期間が4期に区分されており、指導教員の先生にも所見をご記入いただくやりとりが発生します。学会発表後に速やかに提出する報告書も含めて本制度の利用となります。私の場合、2度利用したことで、北海道大学の一員として研究活動をしているという自覚が芽生えました。みなさんも入学したらすぐに本制度の応募期間と関心ある学会の開催日程を確認して、アクティブな学会発表の計画を立てることをお勧めします。

使ってよかった！

キャリア
アップの実感

一度目の学会発表をもとに論文を執筆し『研究論集』に掲載。二歩も三歩も進む推進力に。

英文ジャーナル等に投稿したい

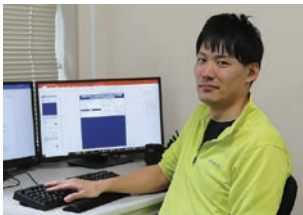
校閲費支援

「共生の人文学」プロジェクト<Graduate Grant Program>

国際学会・国際研究集会での発表及び国際学術雑誌や文学研究院の英文ジャーナル[※]等へ積極的に応募・投稿できるように、発表原稿や投稿原稿の校閲（英文等の添削）料を支援しています。支援回数に制限がないため、本制度を上手に利用しているリピーターもいます。

利用者の声

支援回数に制限なし
ストレスなく研究に専念できます



心理学研究室

博士後期課程2年

前澤 知輝

MAEZAWA Tomoki

私の主な研究テーマは聴覚による空間知覚で、他にも、動物の行動や物の魅力などについて研究しています。修士課程1年生からこれまで4度、学術誌に論文を投稿するために校閲費支援制度を利用しました。本制度の最大の魅力は、なんといっても支援回数に制限がないことです。ただし、1度に使用できる上限額が決まっています、その中におさまるように意識する必要があります。

支援を受けた2本の論文のうち、ひとつが学術誌で受理されました。もうひとつも現在査読中で、引き続き本制度を利用する予定です。支援回数に制限がないということは、1年のうちに執筆できる本数に金銭面での制限がかからないということでもあります。今の執筆作業を進めながら、並行して次に取り掛かることも不可能ではありません。また本制度は国際会議等での予稿にも適用できるので、「現在支援を申請中の論文があるから、学会分の校閲費用は自己負担しなければならぬ」といったことを気にせず研究に専念することができました。海外誌への論文投稿に英文校閲は必須ですし、校閲は自分の英語力アップにもつながります。今後もぜひ持続してほしい制度です。

※文学院および文学研究院が発行する雑誌『研究論集』、Journal of the Faculty of Humanities and Human Sciences では、大学院生の論文発表の場を設けています。

使ってよかった！

キャリア
アップの実感

校閲後の論文が学術誌で受理。書けば書くほど、英語力も磨かれます。

学振の特別研究員に応募したい

申請書の書き方セミナー

文学院では、学術振興会特別研究員（DC・PD）になるための申請書類の書き方セミナーおよび相談会を開催しています。本セミナーでは特別研究員に採択された先輩の体験談や審査員経験を持つ教員の話聞くことができ、参加者満足度は毎年95%を超えています。

利用者の声

求められる水準の高さを知る
余裕を持ったスケジュール管理が鍵



哲学倫理学研究室

博士後期課程3年

小林 知恵

KOBAYASHI Chie

主に英語圏の倫理学の中でも、「よい」「正しい」といった言葉がもつ意味や機能に着目して、人間と道德の関係について研究しています。申請書の書き方セミナーは2回受講しました。研究室の先輩の申請書を読ませていただいても作成のプロセスがイメージできずに悩んだ時期があり、採択者の方々からの具体的なアドバイスを聞きなかったのが、受講動機です。申請書作成は論文執筆とは異なり、分野外の人にも研究内容を分かりやすく伝えることが重要で、自分の研究の意義や新規性を積極的にアピールしたと語る採択者のお話に、求められる水準の高さを実感しました。

学振特別研究員の申請書作成にあたっては締切よりかなり早めに完成できるように留意しました。私の評価書を作成いただく指導教員の先生に前もって申請書を見ていただいたり、先輩や後輩に添削を頼むなど、余裕を持ったスケジュールで準備にあたり、無事採択に至りました。セミナーの内容を活かして民間財団の留学奨学金も獲得でき、自身の研究とキャリアに弾みをつけることができました。現在悩んでいる方は一人で抱え込まないで、ぜひ本セミナーの情報提供やフィードバックを受けてみてください。

使ってよかった！

キャリア
アップの実感

学振も民間の留学奨学金も採択されて次のステージへ。中長期的キャリアの追い風に。

質・量ともに国内屈指の文献資料 学外でもアクセス可能な電子ジャーナル

- 北海道大学附属図書館本館と北図書館に加えて、文学部図書室を含む16の部局図書室があり、総蔵書数は約379万冊。
- 院生各自が研究に必要な図書を購入できる「院生図書費」を確保。
- 「電子ジャーナル」は、北大生ならいつでも・どこからでも閲覧とプリントアウトが可能。



▲文学部図書室は蔵書約27万冊、雑誌約5,100種を所蔵。

国境を越え世界の息吹を実感 専門研究を深める国際交流・留学制度

- 北海道大学では51ヵ国・地域の199大学等と大学間交流協定を締結（2021年3月現在）。
- 文学院独自の留学制度もあり、語学の習得や国際的な研究を後押し。
- 大学院生の交換留学先は、部局間交流協定校の英国のサセックス大学、フランスのバリ大学、ドイツのデュースブルク・エッセン大学、クロアチアのザグレブ大学の他、大学間交流協定校では、吉林大学、ペラデニア大学、サンクトペテルブルク国立大学、モスクワ国立大学、サハリン国立大学、イルクーツク国立大学、極東連邦大学、マサチューセッツ大学、アルバータ大学など多くの大学への交換留学実績あり。

大学院生の経済的負担を軽減 TA・TF・RA採用者に給与を支給

- ティーチング・アシスタント（TA）制度 修士課程・博士後期課程対象
- ティーチング・フェロー（TF）制度 博士後期課程対象
- リサーチ・アシスタント（RA）制度 博士後期課程対象
- 令和3年度より「北海道大学アンビシャス博士人材フェローシップ」が開始。情報・AIまたはSDGs分野の研究に取り組む優秀な博士後期課程学生に研究専念支援金と研究費が支給されます（月額18万円）。

豊かな環境が育む研究成果 栄えある受賞者が続々輩出

〈2020年 受賞者情報〉

- 日本社会心理学会 若手研究者奨励賞 中田星矢さん、前田友吾さん（修士課程）
- 日本基礎心理学会 優秀発表賞 前澤知輝さん（修士課程）、伊藤資浩さん（博士後期課程）
- 日本哲学会 若手研究者奨励賞 安田将さん（博士後期課程）
- 林業経済学会 学生論文賞 澤井啓さん（修士の時の研究が受賞対象：博士後期課程）
- 日本倫理学会 和辻賞（論文部門）安田将さん（博士後期課程）
- 中村元東洋思想文化賞 優秀賞 熊征さん（修士論文が受賞対象：博士後期課程）
- 日本基礎心理学会 優秀論文賞 山内健司さん（博士後期課程）

人文学専攻

人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶ

2019年度
新設

考古学研究室、文化人類学研究室、博物館学研究室、アイヌ・先住民学研究室の4研究室

北海道だから学べる
豊かな人文学の
世界がここに――。

思想・文化・歴史・地域・言語・文学の領域を幅広くカバー

■ 主な講義題目

哲学倫理学研究室	■ 現象学と意識・認知の哲学 ■ 応用様相論理学の諸相 ■ アリストテレス研究 ■ 哲学・倫理学発表演習(エニグマ論) ■ 分析哲学英語文献講読 ■ Louis Lavelle 研究
宗教学インド哲学研究室	■ 部派仏教文献研究 ■ 宗教学と死生学・生命倫理 ■ 新約聖書原典及び初期キリスト教文献講読 ■ インド哲学専門文献講読
日本史学研究室	■ 明治憲法体制と国家の運営 ■ 植民地朝鮮の社会と文化 ■ 近世蝦夷地在地社会論 ■ 古代法制史料の研究 ■ 中世日本社会論 ■ 近現代社会経済史研究
東洋史学研究室	■ 中国近代史研究 ■ 中国前近代史研究 ■ アラブ・イスラーム史研究
西洋史学研究室	■ 西洋古代史の諸問題 ■ フランス近現代史研究 ■ 現代歴史学の諸問題 ■ アメリカ史研究の射程 ■ ヨーロッパ中世・近世史
考古学研究室	■ 考古学と人類誌 ■ 文化財の保存と活用 ■ 考古学と考古科学 ■ 礼文華遺跡発掘調査
文化人類学研究室	■ 生きている世界の人類学 ■ 自然を描く ■ 身体と生成変化の人類学
芸術学研究室	■ 芸術学の諸問題 ■ 美学史研究 ■ 西洋美術史研究の現在
博物館学研究室	■ 博物館と市民・地域社会 ■ コレクションと展覧会の諸相 ■ ユニバーサルミュージアム考 ■ 人間と動物の関係史
欧米文学研究室	■ Special Topics in Graduate English Studies ■ アメリカ文学研究 ■ 古代ギリシア語文献読解 ■ 20世紀フランス文学研究 ■ 翻訳論
日本古典文化論研究室	■ 近松と海音 ■ 神話史研究 ■ 堤中納言物語研究 ■ 中世文学研究
中国文化論研究室	■ 「論語注疏」研究 ■ 民国文人研究 ■ 「朱子語類」研究 ■ 中国語学の諸問題
映像・現代文化論研究室	■ 映画・表象・表現 ■ 日本近代文学と上海 ■ 映像解析の諸相 ■ 戦後日本の思想 ■ 映画と演劇 ■ 現代文芸理論の実践
言語科学研究室	■ アイヌ語学の諸問題 ■ 日本語研究のトピックス ■ 日韓対照研究 ■ 認知言語学研究 ■ ドイツ語学・ゲルマン語学演習 ■ ロシア語学・スラブ語学の諸問題 ■ ロマンズ語統語論研究
スラブ・ユーラシア学研究室	■ ユーラシア境界研究(英語文献講読) ■ Imperial Russian History ■ スラブ・ユーラシア研究の基礎と方法 ■ ロシア文化論 ■ 中欧・バルカン半島の言語と社会 ■ 中東欧比較政治論 ■ スラブ・ユーラシア地域の経済 ■ 中央ユーラシアとロシアの政治 ■ 比較の中の中央ユーラシア史
アイヌ・先住民学研究室	■ アイヌ・先住民政策史 ■ 先住民考古学の理論と実践 ■ アイヌ・北方先住民の宗教 ■ 先住民民族と言語学 ■ アイヌ・北方先住民民族史 ■ 先住民民族と文化資源 ■ 国際先住民学演習

■ 修士・博士研究テーマ例

哲学倫理学研究室	○修士 「アドルノにおける言語および概念批判の再構成の試み―開かれた経験の回復を目指して」、[「J.ハトラーにおけるジェンダー・カテゴリー再考」] ●博士 「How Original is Nishida Kitarō's Philosophy in <i>An Inquiry into the Good</i> ? A Critical Investigation of Japan's 'First' Philosophy」
宗教学インド哲学研究室	○修士 「轉達の浄土思想―『般舟三昧経』との関連を中心に」、[20世紀のフェミニスト宗教研究再考―男性中心主義批判の比較を中心に―] ●博士 「ヨシヤの改革:『エサルハドン王位継承誓約文書』と『申命記』」
日本史学研究室	○修士 「満洲事変と中国人有力者」、「安永・天明期における松前藩主直轄領と場所請負制」 ●博士 「連合艦隊論」
東洋史学研究室	○修士 「初期ムスリム同胞団における不信仰論的特質―クトゥブとフダイビーの思想比較から―」、「前楽政権における羌族の位置づけ」 ●博士 「近世福建漳州地域の陳元光信仰と宗族の形成」
西洋史学研究室	○修士 「19世紀ルイス島におけるハイドランド・クリアランス―内部移住政策とその歴史的意義―」、「フランス革命期におけるふくろう党像の再検討―ウル＝エ＝ロワール県の事例から―」 ●博士 「近世アルザスをめぐる権力秩序―神聖ローマ皇帝・フランス王・帝国等族―」
考古学研究室	○修士 「噴火湾北岸域における縄縄文期前半の土器群の研究―豊浦町小幌洞窟遺跡・礼文華遺跡における土器群構成分析法の実践―」、 「クワとスキに関する考古学的考察」 ●博士 「埋葬環境の判別方法を用いた墓址の考古学的研究」
文化人類学研究室	○修士 「日本におけるイスラエル・ディアスポラ―4人のライフストーリーをもとに―」、「[「オイス様をめぐる人類学」武蔵御嶽神社の狼信仰に関するエスノグラフィ―」 ●博士 「〔沈黙〕のオートエスノグラフィ―「サイレント・アイヌ」におけるサバルタン化のプロセスとポストコロニアル状況―」
芸術学研究室	○修士 「〔ミンスター彫刻プロジェクト〕研究」、「[「蔡国強の作品におけるエネルギーの顕在化」] ●博士 「狩獵塔―レ・デ・ラ・バラダの絵画装飾研究―16,17世紀のスペイン宮廷における君主教育と宮廷絵画ディエゴ・ベラスケスとの関連から―」
博物館学研究室	○修士 「公立博物館における教育普及活動と市民参加の形態に関する研究―16館の年報の比較を通して―」、「 「博物館におけるSNS運用に関する研究―7つの館における対比と円山動物園の時系列変化から考察して―」 ●博士 「企業博物館とは何か―企業博物館に見られる多機能性の検証から」
欧米文学研究室	○修士 「現代フィクションの注釈付き和訳―脱規範世代と女ことば―(特定課題研究)」、「[「見ることから触れることへ―フラナリー・オコナー作品における触覚イメージ」] ●博士 「NEGATIVE IDEALISM OF PERCY BYSSHE SHELLEY: HIS SELF-REVISIONISM TOWARD "THE TRIUMPH OF LIFE"」
日本古典文化論研究室	○修士 「[「百人一首改観抄」の形成]」、「[「出雲風土記抄」の研究」] ●博士 「中世の知と文芸」
中国文化論研究室	○修士 「[「西洋記」の創作について]」、「[六朝期における陶淵明評価―「古今逸説詩人の宗」をめぐる]」 ●博士 「今古文経學に関する研究」
映像・現代文化論研究室	○修士 「クリント・イーストウッド論 物語・時間・運命」、「[小川未明と象徴主義」] ●博士 「成瀬巳喜男とく不確かさ」の映画―1951年以降の作品を中心に」
言語科学研究室	○修士 「観智院本『類聚名義抄』の問題訓について―和訓を中心に―」、「[A Corpus Study of Pragmatic Functions of Discourse Marker Like」] ●博士 「[「も」の文法的特性と語用的機能に関する研究」
スラブ・ユーラシア学研究室	○修士 「歴史と変遷―ウイグル人の中央アジアへの移住及び文化変容」、「[19世紀前半のロシア歴史小説におけるコサック表象」] ●博士 「ソヴィエトの破片と生きる:『集団行為』の半世紀」

哲学宗教学講座

研究領域としては、哲学、倫理学、宗教学、インド哲学の各分野を含みます。各分野の主要テキストと本格的に取り組むには複数外国語の習得が欠かせず、古典語が必要となる領域もあります。人類の連綿たる営為の結晶である哲学や宗教をめぐるさまざまな考察の吸収・継承・展開を目指して、不断に思考力・感性・表現力を磨くことが要求されます。伝統的な原典研究から、先端的・理論的な研究、宗教現象の実証的研究、さらには生命・環境倫理学、AIや神経科学との学際的研究など現代の諸問題に関わる研究まで、多様な研究が行われています。



● 哲学倫理学研究室



● 宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

「日本史学研究室」「東洋史学研究室」「西洋史学研究室」「考古学研究室」から構成されています。歴史学は、いまこの世界が成り立っている所以を過去に遡って探究する学問です。また、それと同時に、現代の世界の在り方を相対化するための手がかりを過去に求めようとする学問でもあります。そしてなによりも、史資料を通して過去の人々との「対話」を楽しむ学問です。当講座は、日本はもちろんのこと世界中の幅広い地域にわたって、このような試みのための場を提供しています。



● 日本史学研究室



● 東洋史学研究室



● 西洋史学研究室



● 考古学研究室

文化多様性論講座

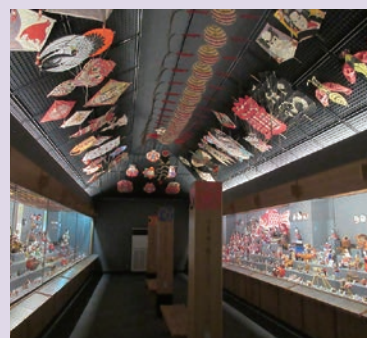
この講座では、「文化人類学」、「芸術学」、「博物館学」という性格が異なる3つの学問分野の教員が、〈文化多様性〉と〈フィールドワーク〉という共通項で教育・研究を行います。人類の文化の多様性と共通性を研究する「文化人類学」。古今東西の美術をはじめ、音楽、文芸、演劇などの多様な芸術を対象に研究する「芸術学」。そして、これらの成果を、展示を含めた事業を通して、多様なミュージアムでどのように展開するかを研究する「博物館学」。これらの研究を、机上で文献をひもとくだけでなく、実際にその現場で考えるフィールドワークを通して進めていきます。



●文化人類学研究室



●芸術学研究室



●博物館学研究室

表現文化論講座

欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論の4研究室によって構成され、文学・思想・映像・大衆文化などを含む幅広い文化を教育・研究の対象とします。英語圏、フランス、西洋古典、中国、日本の各地域と言語、および古代から現代までの時代にわたって、人間が表現してきた豊かな作品を、多様な批評理論・映像論・文化理論に基づき、理論的かつ具体的に分析・評価することを主眼とします。言語文化や視覚メディア文化を深く研究したい方を歓迎いたします。



●欧米文学研究室



●日本古典文化論研究室



●中国文化論研究室



●映像・現代文化論研究室

言語科学講座

言語を科学的に捉える視点から、一般言語学と個別言語学について、記述的、理論的、実証的、応用的な研究を行います。英語、ドイツ語・ゲルマン語、フランス語・ロマンス語、ロシア語・スラブ語等のヨーロッパ系言語学、朝鮮語やアイヌ語を中心とするアジア系言語学、国語学、日本語学などの個別言語学のほか、言語学の多様なアプローチでことばを研究しています。歴史言語学や社会言語学、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の全般に関して言語現象を広く多層的に学びます。



●言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア（ロシア・中央ユーラシア・東欧）は、豊かで多様な文化を持ち、現代世界を考察するうえでも欠かせない地域です。本講座は、この地域の研究の世界的拠点であるスラブ・ユーラシア研究センターの教員が担当しています。センターが所蔵する日本最大規模の図書・資料を利用し、センターに滞在する国内外の研究者との交流や、頻繁に開催される国際シンポジウム・研究会から刺激を受けながら、歴史、政治、経済、国際関係、文学・文化、言語、人類学などの諸分野を研究することができます。



●スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

世界には70カ国以上の国におよそ5000の先住民が暮らしています。先住民学は、ほかの学問領域と比べると比較的新しい研究領域ですが、研究課題は幅広く、先住民を取り巻く文化資源、生活環境、経済社会開発など様々な課題が含まれます。研究の手法も課題ごとにそれぞれ独自の手法が必要であり、多角的な検討が求められます。アイヌ・先住民学講座では、歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の教員が研究しており、アイヌ民族と世界の先住民に関する研究を領域横断的に学ぶことができます。



●アイヌ・先住民学研究室

哲学宗教学講座

哲学倫理学研究室

哲学倫理学研究室では、古代ギリシア以来の西洋哲学・倫理学の原典研究をはじめ、分析哲学・現象学などの現代哲学や日本哲学、論理学やメタ倫理学などの理論的研究、応用倫理学諸分野、神経科学やAI・ロボティクスとの学際的研究など、古今の様々な理論や諸問題に関する研究・教育を行っています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

蔵田 伸雄 教授

KURATA Nobuo

研究内容

再生医療技術などに関わる生命倫理、世代間倫理などの環境倫理学、リスクや遺伝子組換え技術等に関わる科学技術倫理、カント哲学、メタ倫理学、現代英米規範倫理学・政治哲学、科学技術社会論。



▲フットワークに定評があり、研究分野も幅広い蔵田教授。親身になった指導を実践する。



▲規範倫理学やメタ倫理学などの倫理学理論を現代の倫理的問題に結び付けて研究する。

右にならえ、の社会を疑う
科学技術の進歩に倫理のまなざし

人間が科学技術を手にした瞬間に「使ってみたい」という誘惑が生まれます。医療や農業、環境などさまざまな場面で放っておくと暴走してしまいそうな人々や国家の流れに警鐘を鳴らす、それが倫理学の使命の一つです。

私の目下の研究テーマは生命倫理と環境倫理。例えば治療停止についての問題を語る際にも、医療技術の問題や費用に関する経済的な側面、そして”生命とは”を問う倫理的な視点など、重なり合う諸問題をひもとく力が要求されます。また、環境倫理では、我々の世代が次の世代に及ぼす影響を考える世代間倫理の問題も関わってきます。進歩する科学技術と社会との間にどんな接点を見出すのか、その答えを探し続けています。

21世紀を貫く賢人たちの問いかけ
社会でも使える思考力を養う学問

胎児をめぐる出生前診断やAIの倫理など学生の着眼点は多岐に渡っています。どの分野でも参考にするべき先行研究は充実しており、さらに突き詰めていくとカントやアリストテレスなど賢人たちの古典につながっていく。そこが倫理学のおもしろいところでもあります。

倫理とは個人が直感的に判断する好き嫌いではなく、ロジカルに問題点を整理し再構築していくもの。学問の枠を越えた場で使える力が養われていきます。みなさんがそのような力を身につけるための手助けをしたいと考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

哲学宗教学講座

宗教学インド哲学研究室

宗教学インド哲学研究室は、宗教学・宗教史学、新約聖書学、死生学、仏教学、インド哲学などを研究分野とする教員によって構成されており、所属する大学院生は、関連領域の研究職や深い専門知識を必要とする一般職への就職をめざし、上記分野に関連したテーマについて研究を深め学位を取得していきます。

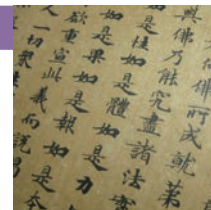
Lab.letters 教員からのメッセージ

林寺 正俊 准教授

HAYASHIDERA Shoshun

研究内容

日本の古写経や、仏教の思想について研究しています。



▲北大図書館が所蔵する平安写経のレプリカ。「古写経画像のデータベース化が進めば、現地に赴いて古写経の実物を閲覧するという制約を離れたテキスト研究が可能になります」と林寺准教授も期待を寄せている。



▲写真は研究室所蔵のサンスクリット写本の影印資料。

文化財から“テキスト”へ
日本の古写経研究に新たな動き

従来、日本の古写経はその歴史的な価値から美術品や文化財として大切にされてきましたが、今、そうした流れに新しい動きが加わりつつあります。国内では一部の古写経をデジタル画像にするデータベース化が始まり、まさにテキスト研究の対象資料として内容の検証が試みられ始めているのです。私もこの新しい取り組みに魅せられた一人であり、世界標準として広く活用されている『大正新脩大蔵経』（底本は高麗大蔵経）と日本の古写経との比較検討をおこない、そこに差異がみられる場合、どちらが本来の読み方を保持しているのかという問題などについて追究しています。

仏教学を専門的に学べる
道内唯一の大学

私自身の研究においても学生の皆さんへの指導にあたっても、異読を含め一字一句をおろそかにしない、という姿勢を大切にしています。後世に伝わる異読や異本は果たして伝承過程で起こった単なる誤りによるものなのか、それとも何らかのわけがあるのか。また、異読や異本によって文の意味は変わるのか、それとも変わらないのか。一字一句を丁寧に読み解くという作業を通して、物事をさまざまな点から見るという複眼的な視野を修得していきましょう。

北海道大学は道内で唯一、サンスクリットやパーリなどのインド古典語をはじめ仏教学を専門的に学ぶことのできる研究教育機関です。私もその一員として、意欲ある皆さんの学びを応援していきたいと考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

蔵田 伸雄 教授 KURATA Nobuo

■研究分野
応用倫理学、規範倫理学・メタ倫理学、西洋近現代哲学(特にカント)

佐野 勝彦 准教授 SANO Katsuhiko

■研究分野
非古典論理、哲学的論理学

野村 恭史 助教 NOMURA Yasushi

■研究分野
現代分析哲学(特にワイトゲンシュタインの哲学)

田口 茂 教授 TAGUCHI Shigeru

■研究分野
西洋近現代哲学(特に現象学)、意識の学際的研究、日本哲学

宮園 健吾 准教授 MIYAZONO Kengo

■研究分野
心の哲学、心理学の哲学、精神医学の哲学、美学、認識論、近世哲学

近藤 智彦 准教授 KONDO Tomohiko

■研究分野
古代ギリシア・ローマ哲学、倫理学

村松 正隆 准教授 MURAMATSU Masataka

■研究分野
近現代フランス哲学、近現代倫理学

教員紹介

佐々木 啓 教授 SASAKI Kei

■研究分野
新約聖書学、宗教学

眞鍋 智裕 准教授 MANABE Tomohiro

■研究分野
インド哲学、インド哲学史

宮嶋 俊一 教授 MIYAJIMA Shunichi

■研究分野
宗教学、死生学

林寺 正俊 准教授 HAYASHIDERA Shoshun

■研究分野
仏教学、仏教思想史

歴史学講座

日本史学研究室

日本史学研究室は、古代・中世・近世・近現代についての、日本および中国大陸・朝鮮半島・北方地域を視野に入れた実証的研究を特徴としており、これまで多数の研究者を輩出してきました。学内には日本史分野の専門書が揃い、史料（北方史一次史料および各時代・各分野の刊本資料・復刻版等）も豊富に集積しており、研究環境に恵まれています。

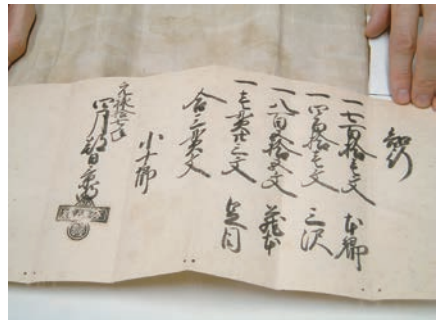
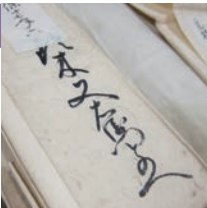
Lab.letters 教員からのメッセージ

谷本 晃久 教授

TANIMOTO Akihisa

研究内容

近世蝦夷地をフィールドとした、アイヌ社会・和人社会により構成される在地社会史の研究。



▲谷本研究室所蔵の鈴木家文書。差出人の「小十郎」とは元禄時代の奥州白石城主片倉小十郎景明（村休）のこと。



▲ロシア・サンクトペテルブルクでの古文書調査。現地に足を運ぶことで得られるものも多い。

すべての情報は古文書の中に
「鎖国」時代の知られざる北海道史

「鎖国」時代の日本において、当時「蝦夷地」と呼ばれていた北海道ではアイヌ文化と和風文化とが共存する一風変わった社会が成立していました。道南・道央部を差配した場所請負人たちはアイヌの人々の労働力に期待する一方で本州からの移住組にも配慮し、その結果、年中行事の中に双方の祭礼を組み込むことで複雑にして豊かな共同体を作り上げていったという記録が残っています。

今、私たちは多彩な文化や価値観が交錯する現代社会を生きています。近世の蝦夷地が異文化とどう折り合いをつけていたのかを知ることは、現代社会が直面する問題解決の糸口になる可能性を秘めています。そしてすべての情報は「古文書」の中に。古文書こそ、先人達の営みや知恵、思いが詰まった情報の宝庫なのです。

読み込み、構築し、文字にする
歴史研究で鍛えられる知の総合力

歴史研究において大切なことは「なんのためにこの研究をするのか」、疑問や課題を常に自身に問いかける姿勢です。古文書を読み解くための基礎知識は学部での授業や自主ゼミを通じて身につけることができます。基本的な読解力を土台に史・資料を読み込み、信頼できる情報を収集し、論理的に自説を構築して論文に仕上げていく。こうした一連の学びが、社会に出た後々にもさまざまな場面で応用可能な力として生きてきます。日本史学研究室での日々がみなさんの成長にさらなる磨きをかけていくことを楽しみにしています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

権 錫永 教授 KWEON Seok-Yeong

■研究分野
日本近代思想史、植民地期朝鮮文化史

白木沢 旭児 教授 SHIRAKIZAWA Asahiko

■研究分野
日本近現代史、日本経済史

谷本 晃久 教授 TANIMOTO Akihisa

■研究分野
日本近世史、北海道地域史

橋本 雄 教授 HASHIMOTO Yu

■研究分野
日本中世史、東アジア海域史

小倉 真紀子 准教授 OGURA Makiko

■研究分野
日本古代史、土地制度・財政史

川口 暁弘 准教授 KAWAGUCHI Akihiro

■研究分野
日本近代史、明治憲法史

歴史学講座

東洋史学研究室

東洋史学研究室は、広く東洋諸地域を対象に歴史研究を行っています。地域は広大で使用する言語は多様です。漢文・現代中国語・ペルシア語・アラビア語・トルコ系諸語で書かれた膨大な史料がひっそりと皆さんの解読を待っています。縦書きや横書きで、竹簡・木簡・紙などに書かれた史料群が。

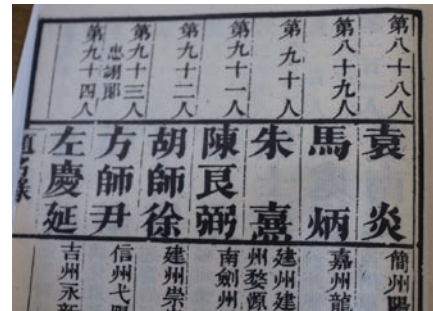
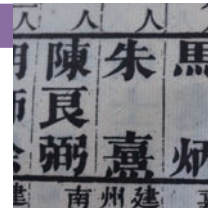
Lab.letters 教員からのメッセージ

梅村 尚樹 准教授

UMEMURA Naoki

研究内容

中国前近代史を担当。専門は宋代の社会史・思想史ですが、当時の知識階級である士大夫（士人）層が、唐から明くらいまでの長いスパンの中で、どのように変化してきたのか、社会と思想の相互作用を手掛かりに研究を進めています。



▲朱子学を大成した朱熹が科挙に合格した年の合格者名簿「紹興十八年同年小録」。成績順にグループ分けされており、朱熹は第五甲の九十人目。順位は下位だが、十九歳での合格は合格者の中で最年少だった。



▲北京にある国子監の石経。儒教の經典は石に刻まれ、それをもとに本が作られた（梅村准教授撮影）。

中国を変えた科挙と学校、
地域社会との関わりを見つめる

宋代に拡充された科挙によって、中国社会の政治と社会は大きく変わりました。科挙制度の浸透とともに受験者数は急増し、彼らが集う各地の「学校」は儒教の儀礼祭祀を行う学び舎であると同時に、中央での出世に備えて自分を売り込む人脈づくりや、地域の有力者・知識層同士がつながる地域コミュニティの場としても機能するようになっていきました。科挙合格の壁は非常に高く、大多数の受験者は不合格のあとに続く、その後の人生をどう豊かに生きていくか、という問いに向きあいます。人文学とは、人間とその人間の集合である社会を知る領域であり、私の研究もまた、中国の科挙というエポックメイキングな制度が及ぼした人々への影響や社会との関わりを見つめています。

書かれていない背景を掴む
深彫りの魅力、漢文史料

漢文史料の精読は一足飛びに上達することは難しく、やはり膨大な量を読んで勤どころを養うのが一番の近道だと感じています。史料の書き手である中国の知識層が書く文章は、四書五経に代表されるような暗黙の共通理解が前提となっており、書かれた単語一つとっても、その背後に潜む“書かれていない背景”を読み解く力が重要になってきます。はじめは謎説きのように感じるかもしれませんが、読んだ分だけ糧となり、オリジナリティある研究へと結実していきます。

北海道大学は中国史研究の伝統があり、私の研究室でも宋代に限らず、さまざまなテーマに関心を持つ学生を歓迎します。深掘りできるからこそ面白い漢文史料の世界で、皆さんの来訪を待っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐藤 健太郎 教授 SATO Kentaro

■研究分野
中東イスラーム史（特に西地中海地域）

吉開 将人 教授 YOSHIKAI Masato

■研究分野
中国近現代史、中国民族問題、秦漢史

梅村 尚樹 准教授 UMEMURA Naoki

■研究分野
宋代社会史、思想史

歴史学講座 西洋史学研究室

西洋史学研究室では、古代ローマ史、中近世ドイツ史、イギリスとフランスを中心とした近現代のヨーロッパ史、アメリカ史をカバーし、それらにおける政治史、経済史、社会史、文化史の研究をしています。また、ジェンダーやナショナリズムや移民といった新たなテーマにも取り組んでいます。

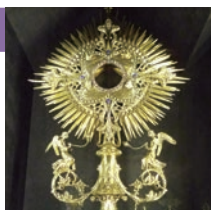
Lab.letters 教員からのメッセージ

松寫 明男 教授

MATSUSHIMA Akio

研究内容

フランス革命によって、ヨーロッパで始めて保障されるようになった宗教的自由（フランスでは礼拝の自由）を対象に、その成立の過程と具体的な保障の内容について、社会史の視点から研究しています。



▲一般信徒は触ることも許されなかった聖杯や聖遺物箱が、革命期には役人の手で箱詰めされ造幣局で地金にされた。写真は破壊を免れた貴重な革命以前の貴金属製聖具。



▲公文書館に保管されているフランス革命期の行政文書。聖具没収の足跡を追う際に「宗教」分類の史料のみに固執せず、「租税」関連にも視野を広げたことで数々の発見がもたらされた。（写真はすべて松寫教授撮影）

マイノリティーの権利も認める ナポレオン政権の公認宗教体制

私の経験上、歴史研究は従来の定説では説明できない事象に気づいたときに大きく動き出すものです。例えばフランス革命以降にナポレオンがとった宗教政策は、これまでカトリック教会との相互依存とするコンコルダ体制の枠内で語られてきましたが、この定説では、両者の交渉に説明がつかない争点が残されたままの状態に。そこで一次史料を再検討したところ、政府はプロテスタントやユダヤ教にもカトリックと同等の権利を保障する公認宗教体制を確立したことがわかり、現場で問題に対応した行政の記録も見つけることができました。

現在は研究対象をフランス革命初期に始まった教会財産の国有化に移し、貴金属製聖具の没収についてその真相を明らかにしようと努めています。

思わぬ発見と出会う現地留学 院生室で自分の立ち位置を知る

当時の役人が事務的に記した行政文書が果たして歴史学的にどういう意味を持つのか、それを確たる史料と理論に基づいて読み解くのが我々歴史研究者の役割です。一見矛盾するようですが、当初の研究計画からはみ出た疑問や気づきこそが、自分ならではの研究成果に結びつく貴重な道しるべ。そうした思わぬ発見と出会うためにも、若い皆さんには現地で史料にあたる留学体験をおすすめします。

本学の場合、留学を含む研究支援制度が手厚く、大学院生は専用の院生室で日々研究できるという大変恵まれた環境が整っています。仲間が大勢いることで論文執筆や学会発表の意欲が増し、院生生活を俯瞰したスケジュール管理の面でも今の自分の立ち位置がわかり、次の目標が立てやすくなります。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

砂田 徹 教授 SUNADA Toru

■研究分野
古代ローマ史

村田 勝幸 教授 MURATA Katsuyuki

■研究分野
アメリカ史、アメリカ研究

長谷川 貴彦 教授 HASEGAWA Takahiko

■研究分野
近現代イギリス史、歴史理論

山本 文彦 教授 YAMAMOTO Fumihiko

■研究分野
ドイツ中世・近世史

松寫 明男 教授 MATSUSHIMA Akio

■研究分野
近現代フランス史

歴史学講座 考古学研究室

人工遺物・遺構・遺跡研究のトップランナーと、最新の考古科学を駆使する動物・植物考古学、文化財科学・年代測定の専門家により教員が構成される考古学研究室。旧石器時代～近現代、ユーラシア大陸・日本列島～アメリカ大陸という幅広い時期・地域をカバーする充実したスタッフ、大学院生の先端的な研究推進を支援します。

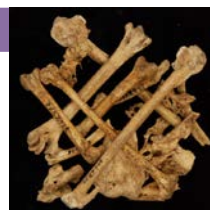
Lab.letters 教員からのメッセージ

江田 真毅 准教授

EDA Masaki

研究内容

遺跡から出土した動物、とくに鳥類の骨を主に研究しています。これらの骨を土器や石器と同様に「遺物」と捉え、過去の人々の生活を復元する一方、「動物の死体」と捉え、過去の動物の生態を復元しています。



▲遺跡資料の分析を端緒に2020年11月には現在「アホウドリ」と呼ばれる鳥が2種からなることを明らかにした研究成果を発表。画像はその「2種」が生息する伊豆諸島の鳥島。



▲2019年6月にはナスカの地上絵に描かれた鳥を同定した研究成果を発表。この「ハチドリ」はナスカ周辺に生息しないカギハシハチドリ類と同定され、世界的な話題となった。

鳥のかたわらに人間あり 物言わぬ骨に過去を聞く

動物考古学とは動物の骨から過去の人々の生活を考える学問です。そのなかでも私は鳥類に軸足を置いて研究しています。例えば、ある遺跡で骨髄骨（一産卵前後の数週間だけ骨の中にできる二次的な骨です）を含むヤマドリ（一産卵前後の数週間だけ骨の中にできる二次的な骨です）の骨が見つかった場合、「この遺跡にいた人々は卵を温めているヤマドリを捕らえるとともに、卵も食べていたかもしれない」という仮説が考えられます。土器や石器の研究だけではなかなか解明できない問いかけを、動物の骨を糸口に論理的にひもといていく。それが動物考古学の面白さだと考えています。国内に鳥類を専門とする研究者は私だけです。そのため、国内外のさまざまな時代の遺跡から出土した鳥骨が寄せられ、それぞれの同定を進めています。

打ち込めるテーマを探し 名推理で自説を構築

遺跡から出土した「モノ」から語る考古学は、一足飛びに答えにたどり着ける学問ではありません。まず自分で「こうではないか」という妄想を膨らませ、仮説を立てて一つ一つ証拠を集めていく。映画や小説で名探偵が発揮するような推理力が求められます。自分自身で思いついた妄想でなく、高いモチベーションを保ち続けるのは難しいもの。骨を様々な角度から見て「これだ!」と没入できるテーマを見出してください。北海道大学にはさまざまな脊椎動物の標本を収蔵する総合博物館があり、また北海道は保存状態の良い動物骨が多数出土する、格好のフィールドです。ぜひ一緒に北海道から動物考古学を盛り上げていきましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小杉 康 教授 KOSUGI Yasushi

■研究分野
考古学、物質文化論、民俗誌考古学

國木田 大 准教授 KUNIKITA Dai

■研究分野
考古学、文化財科学

高瀬 克範 教授 TAKASE Katsunori

■研究分野
考古学、植物考古学

高倉 純 助教 TAKAKURA Jun

■研究分野
考古学、文化財科学

江田 真毅 准教授 EDA Masaki

■研究分野
動物考古学、考古鳥類学、文化財科学

文化多様性論講座

文化人類学研究室

この地球上で人類はそれぞれの自然環境に応じて、多様な文化を育んできました。文化人類学とは、自然と結びついた文化の多様性を、研究者が実際に現場に身をおきながら明らかにする分野です。私たちの慣れ親しんだ世界の外に出て、人類の多様な可能性を知り、これからの地球社会を構想する、そんな自由で創造的な場が文化人類学研究室です。

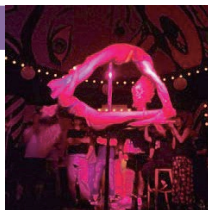
Lab.letters 教員からのメッセージ

コーカー・ケイトリン・クリスティーン 准教授

COKER Caitlin Christine

研究内容

人類学をしている。それは、特定の場所で特定の人々と共に過ごして彼らの生活と世界に没頭することで、生きるということを深く考察する、実践の経験を持って創造的かつ哲学的ノンフィクションを編み出す研究。



▲今沼さんが主宰する「倚羅座」の舞台に参加。右端が本人。冒頭の研究内容右横の画像は京都のクラブでIzumi Amazonessさん（下を担当）と2人でポールダンスを披露したときのもの。



▲土方の弟子たちが企画するワークショップに参加しながら通訳でサポート。奥の黒い服の男性が和栗由紀夫さん。

暗黒舞踏、ポールダンス… 文化人類学で見る舞踏の世界

1960年代に土方巽が立ち上げた「暗黒舞踏」。その現役の踊り手たちの合宿に参加したときのことで。土方巽の孫弟子にあたる踊り手が、目が見えないと信じて踊っているのを見ているうちに、私自身の視界も白くなっていく感じがして、空間が変容しました。土方の弟子である故・和栗由紀夫さんは「踊ることは鑑賞者をmake them fall in love with you（恋させちゃう）こと」とも話しており、文化人類学的な視点で暗黒舞踏を研究する私の“もっとも暗黒舞踏らしい”経験だったと記憶しています。こうした踊り手と観客同士等が共に響き合うことで生まれる現象「アフェクト」について参与観察するところに、自分の研究のオリジナリティーを見出しています。

知ってほしい身体表現の魅力 生成変化の共同研究もスタート

2020年4月に着任した北海道大学で新しくやってみたいことの一つに、舞踏初心者者の学生たちを対象にした身体表現を取り入れた授業というアイデアがあります。身体を動かして感じることで世界の見え方や問題に対する向き合い方がどう変化していくのかを、皆さんと一緒に探っていきたいです。私自身が幼い頃から踊り続けてきたこともあって、踊りを研究対象にしていますが、それ以外のさまざまな身体表現にも関心を持つ皆さんを広く歓迎しています。

研究者としては同じ文化人類学研究室の山口未花子先生を代表とする共同研究《「描かれた動物」の人類学》が2020年10月からスタートしました。新しいプロジェクトから刺激を受けるのをとても楽しみにしています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小田 博志 教授 ODA Hiroshi

■研究分野
人類学、平和研究、自然－人間関係、生命論、エスノグラフィー論

コーカー・ケイトリン・クリスティーン 准教授 COKER Caitlin Christine

■研究分野
人類学、身体化論、パフォーマンス研究、情動論

山口 未花子 准教授 YAMAGUCHI Mikako

■研究分野
人類学、自然誌、動物論、狩猟研究、北米先住民研究

文化多様性論講座

芸術学研究室

芸術学研究室には、美学・美術批評史・西洋美術史・現代美術史を専門とする教員がおり、人間の文化的な営みの精華である多様な芸術作品やその美的経験などを考察の対象として、理論的普遍的哲学的な方法と実証的個別的歴史的な方法とを相携えながら、芸術を巡る総合的な知の構築を目指して研究しています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

浅沼 敬子 准教授

ASANUMA Keiko

研究内容

ヨーゼフ・ボイスやゲルハルト・リヒターといった、ドイツの現代美術家について研究してきました。20世紀のドイツの美術は、現実の政治社会と密接に関連しており、その研究は実にスリリングです。



▲2014年開催の山城知佳子上映会＋トークより（左＝山城知佳子氏、右＝東京都写真美術館学芸員・岡村恵子氏、同志社大学の菅野優希氏と共催）。



▲今井祝雄『ジョイントッド・フィルム』（1973年）より From the video installation artwork of Norio Imai "Jointed Films" (1973)。

映像の物質的魅力を探る

ここ数年は日本の、映像を用いたアート作品の調査、研究を行っています。1960年代、映画界でも物語性を排して立体化・空間化していく動きが起こりますが、この動きを察知した一部の美術家たちは、「彫刻としての映像」、「パフォーマンスとしての映像」ともいうべき、物質性や身体性と結びついた多くの映像作品を生み出しました。現在私がとくに重点的に調査しているのが今井祝雄作品など1960-70年代の関西でのそうした表現動向ですが、一方で、山城知佳子ら2010年代の現在において注目すべき映像作家の調査、記録化も行っています。

新しい表現活動にオープンに

大学教育で心がけているのは、学生さんに美術史の基礎知識を持ってもらうということです。その「基礎知識」には、私の専門領域である1950-60年代以降の現代美術／現代アートの歴史も含まれます。私の学生時代は、教えられる美術史は伝統的な絵画史に基づいていて、映像やインスタレーション、パフォーマンス、アートプロジェクトといった現実のアートシーンとは連動していませんでした。ですから、大学でより新しい表現の歴史を教え、研究することは、私の願いでありました。現代の表現は、過去の表現の歴史と深くむすびつく一方で、しばしば、身近にありながら私たちが見逃している現実との出会いを生み出します。そのような出会いを提供するのも大学の一つの役目ではないか、そう考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

谷古宇 尚 教授 YAKOU Hisashi

■研究分野
西洋美術史（イタリア美術史）

浅沼 敬子 准教授 ASANUMA Keiko

■研究分野
現代美術史

今村 信隆 准教授 IMAMURA Nobutaka

■研究分野
美学、美術批評史、博物館学

文化多様性論講座 博物館学研究室

博物館学研究室では、今日的なミュージアム・ミッションに対応した新しい価値のあり方や創造について、資料・作品・標本に関する調査研究の方法論に基づきながら、フィールドワークを通して考察して行きます。博物館学的なアプローチの可能性を探りつつ、学芸員養成課程での基礎的な知識のバージョンアップを目指します。

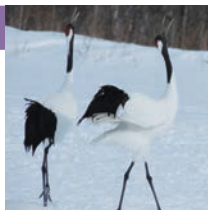
Lab.letters 教員からのメッセージ

久井 貴世 准教授

HISAI Atsuyo

研究内容

主に江戸時代の歴史資料を用いて、野生動物の過去の生態や分布を復元し、人との関わりを解明する研究に取り組んでいます。上野動物園を中心とする過去の動物園の記録から、近代日本の動物園における動物管理の歴史についても研究しています。



▲動物研究というと動物学が真っ先に頭に浮かぶが、ツルを媒介に各研究分野をつなげる「歴史鳥類学」という視点を醸成している。



▲縁起が良いとされるツルは私たちの暮らしのなかにもたくさん「生息」している。ツルに関するグッズを収集することも重要な研究の一つである。

古文書が語りかける ツルと人の共生の未来

江戸時代の鷹狩では「鶴」が重要な獲物であったという古文書の一文を見つけたとき、果たしてその「鶴」は主に北海道に生息するタンチョウなのか、もっと小柄なナベヅルだったのか。その特定を含め、文献に登場する動物そのものに焦点を当てて人との関わりを探る研究は、とても新規性の高い研究分野です。先行研究が少ない分、新たな記述を発掘する喜びがあり、文献調査にもいっそう身が入ります。

近年は道東に限らず、石狩低地帯でもタンチョウが目撃されるようになり、2020年には約100年以上ぶりに北海道長沼町や苫小牧市での繁殖が確認されました。地域の方々と一緒に現代らしい共生のあり方を考える時間もまた、大きなやりがいになっています。

優美にして凶猛な「湿原の神」 観察で鮮明になる文献の真実

アイヌ語でサロルンカムイとも呼ばれるタンチョウは、優美で高貴なイメージがある一方で、アイヌの人々は「凶猛危険」な存在として畏れていたという記録もあります。私が初めて野生のタンチョウに対峙したとき、一瞬身の危険すら感じたその迫力にアイヌの人々がそう描写したくなる心情を、身をもって実感することができました。ツルを自分の眼で観察することで、文献が伝えようとした真実がより鮮明に浮かび上がってくる。貴重な学びとなりました。野生動物の宝庫、北海道には、タンチョウ以外にもヒグマやエゾシカ、オジロワシなどの魅力的な研究対象が潜んでいます。地域社会に根を下ろした野生動物研究の新しい扉を開いていきましょう！

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

表現文化論講座 欧米文学研究室

ヨーロッパや英語圏の文学を堪能します。西洋古典文学・フランス文学・英語圏文学などの伝統的研究を縦系に例えると、横系は文献学・文化歴史表象・比較文学・文学理論などの横断的手法。多様な糸で紡がれた文学の絨毯に乗り、想像と創造の世界に旅立ちましょう。

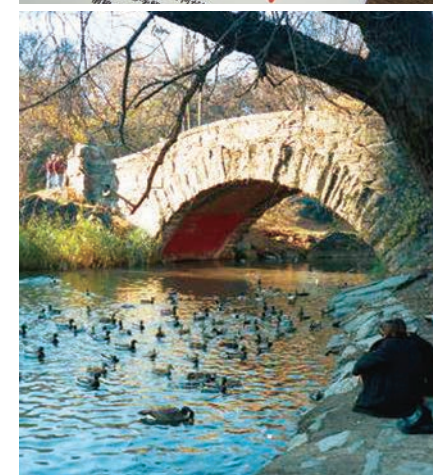
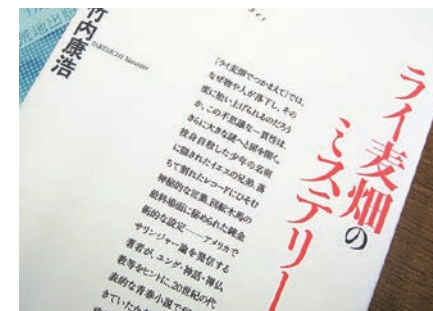
Lab.letters 教員からのメッセージ

竹内 康浩 教授

TAKEUCHI Yasuhiro

研究内容

19・20世紀のアメリカ文学における散文作品。



▲竹内教授の研究作品『ライ麦畑でつかまえて』の舞台にもなったニューヨーク・セントラルパーク（撮影：竹内教授）。

小説は自己を映し出す鏡 西洋文学、受容から発信の時代へ

マーク・トウェイン、フィッツジェラルド、サルンジャー等の作品を読んで、みなさんはどこにひっきりを感じたり、何に共感したりしますか。小説を読んでいると、最初は作中人物の心情や筋の展開に心を奪われていたのに、気づくと物語の中に読み手である自分の姿を見出してしまふことがあります。鏡を見るのと似た感じです。

今、国内の西洋文学研究は変わりつつあります。英米での先行研究を受容する時期を経て、現在は日本人研究者も自説を海外の学術研究誌や学会で発表する発信の時代。そうした場面でも、根底には作品を通じて「自分とは何か」という問いかけに正面から向き合う真摯な姿勢があるべきだと思います。

安易な思考の近道を選ばない すべての答えは目の前にある

文学研究の落とし穴は”ファースト・フード的思想”です。手っ取り早く答えを知りたくて、他人の説を寄せ集めて体裁を整えてしまう。みなさんには思考の近道を選ばずに、一つ一つの議論に納得しながら前に進んでもらいたい。

思えば小説とは単純なもので、ページの上に全てが書いてある。しかし、不思議なことに読み手によって見ているものが全然違う。これは映画も同じで、スクリーンに映っている全てを私たちは見ているでしょうか。この講座での学びを通じてぜひ曇りの少ない視野を手に入れ、不確かな情報が行き交う社会に出てからも大いに活用してほしいものです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐々木 亨 教授 SASAKI Toru

■研究分野
博物館学、文化人類学

鈴木 幸人 准教授 SUZUKI Yukito

■研究分野
日本美術史、博物館学

久井 貴世 准教授 HISAI Atsuyo

■研究分野
動物に関する歴史と文化、博物館学、歴史鳥類学

教員紹介

瀬名波 栄潤 教授 SENAHA Eijun

■研究分野
英米文学、英語圏文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究

竹内 修一 教授 TAKEUCHI Shuichi

■研究分野
フランス現代文学

竹内 康浩 教授 TAKEUCHI Yasuhiro

■研究分野
アメリカ文学

戸田 聡 准教授 TODA Satoshi

■研究分野
古典文献学（特に古代ギリシア語文献学）、古代キリスト教史

宮下 弥生 助教 MIYASHITA Yayoi

■研究分野
Shakespeare劇、物語理論、中世英語英文学

表現文化論講座

日本古典文化論研究室

日本古典文化論研究室は、世界に冠たるわが国の文化遺産、すなわち、日本古典文学・日本古典文化に関する学問を行う研究室です。『古事記』・『万葉集』に代表される上代から、近松・西鶴・芭蕉等が人気の近世まで、各自の好みに合致した研究を万全の体制でサポートします。

Lab.letters 教員からのメッセージ

後藤 康文 教授

GOTO Yasufumi

研究内容

『伊勢物語』『堤中納言物語』等の注釈的研究。



▲数多くの院生が研究テーマとしてきた『源氏物語』。後藤教授の次のテーマは『竹取物語』。長年“未詳”とされた箇所迫る。



▲平安後期に成立した『浜松中納言物語』。「原本を書写し後世に伝える過程でさまざまな誤写や誤読が生まれます」と後藤教授。

傍証から帰納的に結論を導く
壊された本文の「復元」作業

『伊勢物語』や『狭衣物語』に代表される平安文学の作者がそれぞれの作品で何を書こうとしていたのか。タイムカプセルでもない限り当の作者による答え合わせは望めない話ですが、既存の写本や注釈資料を読み進めていくうちにどうしても見過ごせない誤写や誤読に出合ったところから、現在私が打ち込んでいる「復元」研究が始まりました。現代人である我々を基準に考えるのではなく、物語が書かれた当時の語義、語法などさまざまな要素を帰納的に解釈していくと、「これだ」という一点が見えてくる。医者の見立てさながらに、欠陥を指摘し本来の姿に修復する「復元」の面白さに魅せられています。

ルールは敷かない放任主義
本物との対話が財産に

私自身が学生時代にそうして育てられたように、院生指導の基本は“放任主義”。「この作品をこういう切り口で解釈し、この材料を集めて何月までに組み立てなさい」という手取り足取りの指導では、その学生が研究職を歩まんとした意味がありません。自分のアイデアで構築した論文を発表し、評価されてはじめて達成感を得られるというもの。書いてきたものにはもちろん責任をもって指導しますし、あとは学会のときに第一線で活躍されている“本物”の先生方と学生を引き合わせるお膳立てをするくらい。“本物”と話した経験はどの文献資料にもない自分だけの財産となります。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

金沢 英之 教授 KANAZAWA Hideyuki

■研究分野
上代文学

野本 東生 准教授 NOMOTO Tosei

■研究分野
中世説話文学

後藤 康文 教授 GOTO Yasufumi

■研究分野
平安時代物語文学

富田 康之 教授 TOMITA Yasuyuki

■研究分野
近世演劇

表現文化論講座

中国文化論研究室

中国文化論研究室では、中国の思想、言語、文学などをはじめ、中国および漢字文化圏に関する幅広いテーマを学習・研究することができます。多くの学生は、中国・台湾への短期・長期の留学を体験しています。また本研究室には、中国からの留学生も多く、相互に生の異文化に触れあい、学びあうことができます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

田村 容子 准教授

TAMURA Yoko

研究内容

1. 中国の近現代演劇
2. 連環画・プロパガンダ芸術
3. 中国における社会主義文化の受容



▲男旦が表紙を飾る雑誌『百美图』（1938/1939）。いずれも新作劇のヒロインだが、右（楊貴妃）は古典風の衣裳、左（ナボレオン夫人ジョセフィーヌ）は西洋風のドレスを着用している。



▲中国文化論研究室有志で年1回発行している同人誌「連環画研究」。2021年で10号を迎える。「連環画」は中国の絵物語。

激動の20世紀中国を映し出す
「男旦」と女優の演劇史

中国の伝統演劇である京劇は20世紀に入ってから近代化の波を受け、「男旦^{ナンタン}」（おんながた）によって演じられた女性役を、女優も演じるようになりました。この女優台頭に対して京劇史上屈指の男旦である梅蘭芳^{メイランファン}は、独自の演技術を模索して男旦の価値を高め、その一方で海外文化の流入の早かった上海では、女優の向こうを張る衣裳や演出で、新しい現代的な女性像に挑む男旦もあらわれました。こうした役者の生き様はそのまま、中国文化史の映し鏡になっており、時代の潮流を読みながら芸術的欲求を追求する演劇人たちのたくましが、舞台におとらぬ輝きを放っています。

懐の深い中国文化論研究室
共通言語としてのビジュアル資料

北大の中国文化論研究室は、中国に関する研究ならなんでもできるという懐の深さが魅力です。武田雅哉先生を中心に行った共同研究「乳房の図像と記憶」は、中国文化の乳房史を取り上げたもの。中国から出発し、地域や学問領域の境界を越えて、乳房にまつわる想像を探究しました。学生でいられる時間を、“目標までの最短ルート”を選んで過ごすよりも、自分の好奇心を大切にしてください。

膨大な数の方言や識字率の低かった歴史を持つ中国では、演劇や絵画のようなビジュアル文化は、“共通言語”の役割を果たしてきたといえるでしょう。文字で得た知識だけにとらわれず、“絵”を読み解く面白さを、みなさんと共有していきたいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

近藤 浩之 教授 KONDO Hiroyuki

■研究分野
中国古代思想、易学思想史

田村 容子 准教授 TAMURA Yoko

■研究分野
中国演劇、中国文学

武田 雅哉 特任教授 TAKEDA Masaya

■研究分野
中国文化、文学、芸術

弐 和順 教授 YUHAZU Kazuyori

■研究分野
中国古代美術思想

表現文化論講座

映像・現代文化論研究室

映像・現代文化論研究室では、日本の近代・現代の文学全般、日本および世界の映画を中心として、広く現代の表象文化（アニメーション映画・マンガ・写真・サブカルチャーを含む）と思想を理論的・具体的に考究します。文学・映像・思想のいずれについても、現在の理論水準を追究し、現代世界に通用する最先端の研究を目指します。

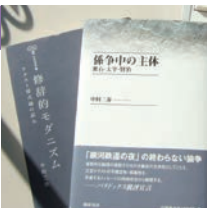
Lab.letters 教員からのメッセージ

中村 三春 教授

NAKAMURA Miharū

研究内容

有島武郎、宮澤賢治、横光利一、太宰治ほかのテキスト様式論、虚構理論を中心とする文芸理論、映像表現を含む日本文化と外国文化との比較研究。



▲著書『係争中の主体』と『修辭的モダニズム』で岩手県花巻市主催の第17回宮澤賢治賞奨励賞を受賞した。



▲草稿の校異についても詳しく記述された『新校本 宮澤賢治全集』。

「わけのわからなさ」の魅力を究める
宮澤賢治という名の深く豊かな森

宮澤賢治の草稿（原稿）を見ると書き変え・書き直しが実に多く、推敲の跡を発見できます。小説や詩は作者の主張を明確に読者に伝えるものと思われがちですが、賢治の場合はそうではありません。作品の中に分裂や対立があり、読者にさまざまなことを考えさせます。「なんのことだか、わけのわからないところもあるでせうが、そんなところは、わたくしにもまた、わけがわからないのです」と、賢治自身、童話集『注文の多い料理店』の「序」で語っていました。宮澤賢治研究とは果てのない森に分け入るようなもの。『風の又三郎』や『ピゼリアン大祭』が持つ「わけのわからなさ」こそが彼の文芸の深さ、豊かさなのです。

他にも現代文学からは村上春樹や、日本文学を原作とする1950年代の映画なども題材にしなから、「肯定と否定」「可能性と不可能性」が共存する作家や表現に着目していきます。

文学研究の芽を健やかに伸ばす
プレゼンテーションも大切な技術

文学研究の発想やオリジナリティーはみなさんの内にあるものです。私の役目はその萌芽を伸ばし、世に出すためのガイドを務めること。資料の収集方法や論文の書き方、パソコンを使ったプレゼンテーションなど自分の考えを他者に効果的に伝えるための技術指導を重視しています。

日本文学や日本文化は今世界から注目を集めています。中国や韓国などアジアの視点で日本文学を見直してみても、いい刺激になると思います。北の大地にこもらずに国内外に通じる広い視野を育てほしいですね。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

言語科学講座

言語科学研究室

言語科学研究室では、言語の構造と運用に関して一般言語学と個別言語記述の立場から理論的、実証的、応用的な研究を行います。日本語（国語学・日本語学）、英語、ドイツ語・ゲルマン語、フランス語・ロマンス語、ロシア語・スラブ語、朝鮮語、アイヌ語を中心に、関連領域を含む多様な言語研究を高度に展開するための指導体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

菅井 健太 准教授

SUGAI Kenta

研究内容

ロシア語やブルガリア語を中心とするスラブ諸語の文法研究、ブルガリア国外のブルガリア系マイノリティの言語記述研究。



▲ブルガリアは方言研究の先進国。画像は北東ブルガリア方言の音声、アクセント、語彙、文法形態のヴァリエーションの分布や広がりを記した「ブルガリア語方言地図第2巻」より。



▲モルドバのインフォーマントと自家製ワインで乾杯。何度も通い信頼関係を築くことで、仲間内の言葉で話してくれるようになる。

二つの言葉が混じり合う
言語接触から社会を問う

モルドバ共和国は、モルドバ人（ルーマニア系）のほかにウクライナ人、ロシア人、ガガウズ人、ブルガリア人などが暮らす多民族国家です。現地で暮らすブルガリア系住民はブルガリア語とロシア語のバイリンガルで、職場や学校では民族間の“共通語”の役割を果たすロシア語を一般的に用いる一方で、家族や仲間内ではブルガリア語を用いるという具合に二つの言語を併用する環境にあります。

私の研究では、このように二つの言語が隣接する言語環境にあるブルガリア語が言語接触によって起こした言語変化を文法的に解析するほか、社会言語学の視点からの分析も試みています。今後も現地での聞き取りを続け、人と言語そして社会の関わりを見つめていきます。

自分の関心を突き詰めて
顔が見える言語研究を

現在は膨大な言語データを研究室にいながらにして取得することができる時代ですが、私がとりわけ大切にしたいのは「顔が見える言語研究」です。現地調査の音源を聞き直すと、その時の会話や笑顔、出された食事の味までもが瞬時に甦り、言葉に体温が通い出す。その人間らしさに魅力を感じて今も現地に足を運んでいます。また北海道大学のスラブ・ユーラシア研究センターは研究地域が重なる先生が多く文献も豊富で、文学院での研究をさらに厚みのあるものしてくれます。

学生の皆さんには、自分が本当に「知りたい!」と思ったことを迷わず突き詰めてほしいと思います。言語研究の最前線は日々刻々と変わり、どこを切り取るかは皆さんの関心次第。新しい可能性の芽がそこかしこに眠っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

加藤 重広 教授 KATO Shigehiro

■研究分野
言語学、日本語学、語用論

佐藤 知己 教授 SATO Tomomi

■研究分野
言語学、アイヌ語、北方言語

清水 誠 教授 SHIMIZU Makoto

■研究分野
ドイツ語学、ゲルマン語学

野村 益寛 教授 NOMURA Masuhiro

■研究分野
英語学、認知言語学、意味論

藤田 健 教授 FUJITA Takeshi

■研究分野
フランス語学、ロマンス語学、統語論

李 連珠 准教授 LEE Yeonju

■研究分野
韓国語学、言語学、日本語学、音声学、音韻論、日韓語対照研究

菅井 健太 准教授 SUGAI Kenta

■研究分野
ロシア語学、スラブ語学

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア学研究室

スラブ・ユーラシア学研究室は、ロシア・中央ユーラシア・東欧のさまざまな地域を総合的に研究する地域研究を学ぶ研究室です。研究対象地域の言語と、多彩な分野の専門知識・方法を身につけ、他地域との比較も視野に入れながら、先端的な研究を行うことができます。現地調査や国際学会での報告も奨励・支援しています。

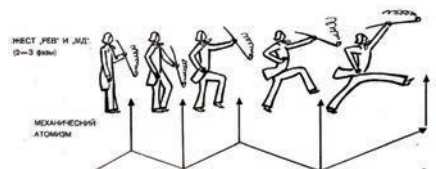
Lab.letters 教員からのメッセージ

安達 大輔 准教授

ADACHI Daisuke

研究内容

18世紀から現代にいたるロシアの言語文化を、おもに文学作品とメディアの関係に焦点を当てて研究。ゴゴリを中心とするロマン主義文学と同時代のメディアの比較、カラムジンの創作活動を貫く文化間翻訳の問題のほか、ソ連初期のピアノ演奏理論から当時の身体観を浮かび上がらせた研究などもある。現在はロシアのメロドラマに取り組んでいます。



▲ゴゴリ研究の記念碑的著作であるA.ペーレイ「ゴゴリの至芸」(1934年)161頁より。ゴゴリの創作の第2期になると、映画のコマ割りのように動きが分割される。のちに写真や映画によって人間の動きが作られていく、その源流がゴゴリ作品にあることを示唆している。



▲1845年ローマで撮影された写真。ゴゴリ(赤い丸をつけた人物)が写っているとされる(出典:V.スターソフの論文「ローマでのゴゴリとロシアの芸術家たち」)。



▲尊敬するロシア国立人文大学ユーリイ・マン教授の別荘を訪問。文学作品を丁寧かつ客観的に読む姿勢を教えていただいた。

「違う自分」を見つめ続ける
ゴゴリからの問いかけ

19世紀の近代ロシア文学におけるパイオニアの一人であるゴゴリが生きた時代は、写真の創成期でもありました。ときに私たちが自分の写真を見て違和感を覚えるように、写真は「違う自分に直面させる」一面を持っています。この点から考えると実はゴゴリも「違う自分といかに向き合っていくか」を我々に問いかけ続けた作家です。本当の自分の投影である「鼻」や「外套」をなくしたとき、人はどうふるまうのか。「私」「自分」とメディアとの関係は、19世紀当時のロシアと現代日本でどれほど重なり合い、どれほどずれるのか——。従来は文学の外にあると思われていたメディアや身体と接点を持ちながら、ゴゴリ研究の視野を膨らませています。

豊かなロシア文学研究の伝統と
つながりを生むベストな環境で

ゴゴリを読んだ学生がよく言う感想は「オチはどこに?」。一読しただけではわからないゴゴリ作品にある意味、的確に表した言葉だと思います。ですがゴゴリの魅力はまさにその「オチどこ?」にあり、普段見えている世界とは異なる世界を提示してくれるところ。目に見えるものを疑う近代文学の本質をうったえかけてくれるところです。

北海道大学の文学院にはあらゆる時代をカバーするロシア文学研究の長く豊かな伝統があり、スラブ・ユーラシア研究センターには歴史、政治、経済、国際関係、言語、人類学などといった多彩な隣接分野や諸外国の優れた研究者とつながりながら研究できる刺激的な環境が整っています。この二つが揃う北海道大学こそ日本でベストな選択肢になりうと思っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

アイヌ・先住民学講座

アイヌ・先住民学研究室

アイヌ・先住民学研究室では、文化資源、生活環境、経済社会開発など、先住民族を取り巻く様々な課題の研究を行います。歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の視点からアイヌ・先住民学を体系的に学ぶための指導体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

落合 研一 准教授

OCHIAI Ken-ichi

研究内容

日本国憲法の規範的枠組やアイヌの人々の具体的なニーズを踏まえたアイヌ政策の可能性について、アメリカ合衆国のインディアン法制度や台湾の原住民族法制度などを参考にしながら、研究しています。



▲先住民族を抱える諸外国の法制度や先住民政策も調査しています。写真は、訪問したスミソニアン国立アメリカ・インディアン博物館(ワシントンD.C.)。



▲台湾の原住民族政策も参考になります。台湾では、正名(差別的呼称撤廃)運動を経て、原住民族という法的身分が中華民國憲法に明記されました。写真は、国家人権博物館(台北市)での正名運動に関するパネル展。

アイヌ・先住民研究に
法学的視点でアプローチ

北海道大学アイヌ・先住民研究センターに所属し、憲法学を専攻している私の立ち位置は、全国でもきわめて稀だと思います。従来は人文学が中心であったアイヌ・先住民研究に、法学・政治学の視点を加え、学問領域横断的に理解を深めていく。その一端を担っていると考えています。

2019年4月、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律案」(通称「アイヌ施策推進法案」)が国会で可決され、市町村という基礎自治体が、地域のアイヌの人々の意見を踏まえながらアイヌ施策を実施していくことになりました。法律は枠組であり、肝心なのはその運用です。現実的妥当性を踏まえながら、運用の行方を見守っています。

北大だから学べる先住民法学
目に見えない法の輪郭を知る

「先住民族」は、比較的新しい政治的概念であり、その本質を理解するには国際社会や各国の法制度を学ぶ必要があります。「先住民法学」は、北海道大学だからこそ学ぶことのできる新しい学問領域。アイヌ・先住民に関心のある学生とともに内容を深めていきたいと考えています。

日常社会は、実は様々な法制度でできています。車や歩行者が赤信号で止まらなければならないのも、道路交通法にそのように定められているから。法律は言葉でできているので、目に見えなければ手触りもありません。その言葉の意味を自ら学ぼうとしない限り、私たちの前に立ち現れません。皆さんにも、社会に出る前に一度は法の輪廓に触れてほしい。そう期待しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

加藤 博文 教授 KATO Hirofumi

■研究分野
先住民考古学、先住民文化遺産、シベリア人類史

丹菊 逸治 准教授 TANGIKU Itsuji

■研究分野
口承文芸論、アイヌ語、ニヴフ語

石原 真衣 助教 ISHIHARA Mai

■研究分野
文化人類学、先住民研究

落合 研一 准教授 OCHIAI Ken-ichi

■研究分野
先住民法学、憲法学

蓑島 栄紀 准教授 MINOSHIMA Hideki

■研究分野
アイヌ史、北東アジア民族史、日本古代史

北原 次郎太 准教授 KITAHARA Jirota

■研究分野
アイヌ宗教文化、アイヌ語、口承文芸

山崎 幸治 准教授 YAMASAKI Koji

■研究分野
アイヌ物質文化、文化人類学、博物館学

教員紹介

岩下 明裕 教授 IWASHITA Akihiro

■研究分野
ロシア・CIS外交、境界研究

仙石 学 教授 SENGOKU Manabu

■研究分野
中東欧比較政治、政治経済学、福祉政治

野町 素己 教授 NOMACHI Motoki

■研究分野
言語学、スラブ言語学

宇山 智彦 教授 UYAMA Tomohiko

■研究分野
中央アジア近代史・現代政治、比較帝国史

田畑 伸一郎 教授 TABATA Shinichiro

■研究分野
スラブ・ユーラシア経済、比較経済体制論、北極域研究

青島 陽子 准教授 AOSHIMA Yoko

■研究分野
中東欧・ロシア近現代、ロシア帝国統治構造

ウルフ・デイビッド 教授 WOLFF David

■研究分野
ロシア史、冷戦史

長縄 宣博 教授 NAGANAWA Norihiro

■研究分野
旧ソ連地域のイスラーム、ロシア近現代史

安達 大輔 准教授 ADACHI Daisuke

■研究分野
文学、表象・身体・メディア、ロシアの言語文化



試行錯誤の果てに手にした 独創性で私らしく

人文学専攻 東洋史学研究室 博士後期課程3年

末森 晴賀 *SUEMORI Haruka*

研究生生活の入口で試行錯誤したのちに
現在の研究テーマにたどりついた末森さん。
エーゲ海の家風と理解ある教員たちに背中を押され、
研究という壮大な海に漕ぎ出しています。

アジアとヨーロッパの中間
オスマン朝に着目

外国史をやりたいと文学部に入り、「日本史でも西洋史でもない歴史研究は何でもできる」と誘われて東洋史学研究室へ進みました。自分のもと、何にでも興味を持ってしまうたちなので絞り込むのは遅いほう。卒業論文のテーマもプレ発表の直前に、中東からヨーロッパにかけて広大な地域を支配していたオスマン朝に決めました。オスマン朝はちょうどアジアとヨーロッパにまたがるので、どちらにも関心を持つ私にはうまくハマったと思います。

同期はほぼ全員、学部卒業後に就職したので、大学院進学前は「人と違うことをしてこの先、大丈夫かな」という不安もありました。それでも先輩方がご自分のペースでそれぞれの居場所を見つけて研究が続いている姿に勇気づけられ、「自分が面白いと思えるうちは研究を続けよう」と気持ちを固めて、現在に至ります。

現地のトルコで浮かび上がった
本命の研究テーマ

博士後期課程に進み、現地のトルコに留学しようと思い、事前に北大の出張旅費支援制度を使って二週間ほど下見に行かせてもらいました。実を言うと、エーゲ大学に留学中も現地でしか見聞きできないものに私の好奇心は広がるばかり。修士とは違う新しいテーマに取り組みたいという思いもあり、なかなかテーマを絞れない私を、指導教員の佐藤健太郎先生や受け入れ先の先生は根気よく待ってくださいました。そのおかげで納得のいくテーマにめぐり合うことができ現在はクレタ戦争を基軸に、17世紀のオスマン朝とヨーロッパ間の海上秩序などを明らかにしようとしています。こうした研究は世界的に見ても珍しく、自分で満足のいく博士論文が書けそうです。もし進学先が北大の大学院でなかったら、今の私はいないはず。人との縁に心から感謝しています。

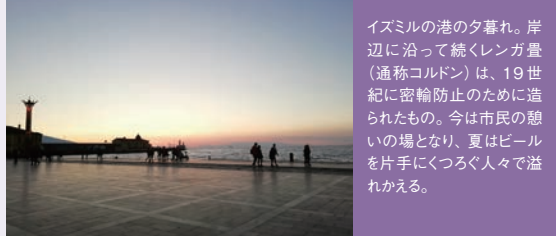
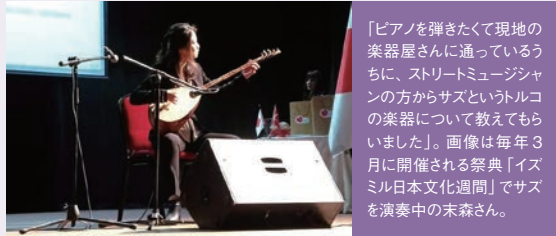
PROFILE

1991年静岡県生まれ。
北海道大学文学部卒業後、大学院に進学。
オスマン史を研究し、博士後期課程1年次にトルコ・エーゲ大学に3年間留学。
2020年3月帰国。



Research and Study History 〈学部から現在までの歩み〉

滞在先の港町イズミルでは唯一の日本人留学生だった末森さん。
現地により深くコミットした環境で貴重な史料収集や語学の上達、そして温かい人間関係と多くの収穫を得たそうです。

2009	北海道大学に入学。	
2010	文学部に進級。東洋史学研究室を選択。フランス・ストラスブール大学に1年間交換留学。	
2011	帰国。	
2013	卒業論文「18世紀西アナトリアの地方有力者とオスマン帝国ー「山賊サルベイオウルの反乱」を中心にー」提出。大学院修士課程に進学。	大学院での研究のベースとなる卒業論文は、その後の評価にもつながるのでとても大切。独創性や表現といったテクニカルな部分も重要ですが、何より本人が心から面白いと思って書いているか、行間からにじみ出る数値化できない想いが読み手の心に深く響くと思います。
2015	修士論文「サルベイオウルの騒乱と18世紀の西アナトリア社会」。博士後期課程に進学。	
2017	主にアジア・アフリカを対象とした日本人留学を助成する「松下幸之助国際スカラシップ」の支援を受け、1月からトルコ西部のエーゲ海に面した港町イズミルに滞在し、現地のエーゲ大学に留学。研究テーマは「後期オスマン朝の地域エリートと地方社会-17-18世紀のアナトリアを中心に-」。同スカラシップの助成期間は2年間。	 史料収集を考えると通常、オスマン史の研究者の留学先は、図書館・文書館が集中しているイスタンブールか首都アンカラが普通。イズミルにいた日本人留学生は私一人でしたが、その分現地の方々と密接に関わり、特に受け入れ先の先生にはご家族ともども、公私にわたって面倒を見ていただきました。現地の大学・大学院に入学可能なC1レベルのディプロマを取得するなど、トルコ語が一気に上達しました。  イズミル郊外にあるエフェソス（エフェソス）遺跡。古代の図書館（復元）前で、綿花栽培で有名な近郊都市デニズリ産のTシャツを着て。  イズミルの港の夕暮れ。岸辺に沿って続くレンガ量（通称コルドン）は、19世紀に密輸防止のために造られたもの。今は市民の憩いの場となり、夏はビールを片手につるぐ人々で溢れかえる。  「ピアノを弾きたくて現地の楽器屋さんに通っているうちに、ストリートミュージシャンの方からサズというトルコの楽器について教えてもらいました」。画像は毎年3月に開催される祭典「イズミル日本文化週間」でサズを演奏中の末森さん。  イズミルから車で約2時間のティレという町にある図書館。19世紀前半にオスマン朝の高官ネジバ・パシャによって建てられた。写本や文書史料のデジタル化が進むトルコで現物を見ることができる数少ない図書館の一つ。
2019	日本学術振興会の特別研究員（DC2）として、引き続き現地に1年間滞在。	
2020	3月帰国。オンラインの研究会で留学中の成果を報告。	
2021	博士論文を執筆中。秋頃に「松下幸之助国際スカラシップ」の援助を受けて風響社からブックレット（題目：『ムスリム捕虜の語る近世の地中海ーマルタの「海賊」とオスマン朝のはざまー』）が出版予定。	帰ってきたとたん日本中がステイホームの状況になり、人間関係がほぼゼロになった時はちょっとキツかったです。ただオンライン環境が整うと、北海道にいながらにして道外や国外の研究者とつながることができるメリットも感じるようになりました。

※本項は2021年5月現在のデータで構成しています。

人間科学専攻

国際的な人間科学研究をさらに高めへ

実績

さまざまな大型研究プロジェクトを牽引した世界レベルの研究実績が揺るがぬ土台に。

人間と社会に関する
総合的な学びに
科学的にアプローチ。

実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法でアプローチ

■ 主な講義題目

心理学研究室	■ 心理学研究のフロンティア ■ 脳科学研究 ■ 感覚・知覚研究 ■ 環境認知の心理学 ■ 認知神経科学の問題と方法 ■ 音楽心理学の問題と方法
行動科学研究室	■ 現代社会心理学の動向 ■ 比較認知科学の最前線 ■ 文化と集団 ■ 環境社会心理学 ■ 社会心理学 ■ 集団力学の理論
社会学研究室	■ 社会学論文の構成と執筆法の解説 ■ 計量的分析の基礎と応用 ■ 社会学の理論と実証 ■ 東アジアの近現代化と政教関係・教団発展の経路
地域科学研究室	■ 地域科学研究法の基礎 ■ ポリティカル・エコロジー論 ■ 人と動物の関係論 ■ 地理学と地理空間情報 ■ 農村振興論

■ 修士・博士研究テーマ例

心理学研究室	○ 修士 「児童期における共感の神経基盤について：fMRIによる検討」、 「Biased distance estimates using echolocation in sighted participants」 ● 博士 「Effects of Prenatal and Postnatal Ethanol Exposure on the Development of Ultrasonic Communication and Sociality in Rats」
行動科学研究室	○ 修士 「ゴルトン問題へのベイズ統計とモデル比較の観点からのアプローチ－環境の厳しさと規範の厳格さを事例とした検討－」、 「集団を越えた相互協力の達成に関する実験的検討」 ● 博士 「累積的文化進化における文化アトラクターの影響：実験室実験を通じた網羅的検討」
社会学研究室	○ 修士 「新興宗教の拡大期における入信者の主体性に関する研究－日本の「エホバの証人」を対象に－」、 「双生児と非双生児の教育達成－行動遺伝学と社会学からのアプローチ－」 ● 博士 「地域子育て支援の施策と課題－子育ての私事化／社会化をめぐる－」
地域科学研究室	○ 修士 「「市」の社会的機能に関する研究－岩手県盛岡市「神子田朝市」を事例に－」、 「御蔵島の「ネコ問題」に関する住民の意識」 ● 博士 「不動産情報からみたニセコエリアのスキーリゾート開発に関する地理学的研究」

心理学講座

人や動物の認知活動は如何に行われ、脳はどのように働いているのか？当講座では、このような認知心理学の問題をテーマとした教育・研究を行っています。具体的には、感覚・知覚、注意、記憶、学習、発達など、長い歴史を持つ分野における心的過程の解明のみならず、脳科学、音楽、魅力など、比較的新しい学際的な分野における現象やそのメカニズムについての理解を進めたり、産業応用にも取り組んだりしています。全教員が連携を取りながら、専門家・研究者の育成を行っています。



●心理学研究室

行動科学講座

社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・神経科学・比較認知科学など人間・社会科学諸領域で生み出された理論と方法を融合させ、「心と社会のマイクロ・マクロ関係」、すなわち人や動物の心とそれを取り巻く社会との相互影響過程に関する先導的研究を進めています。協力行動の適応的・神経科学的基盤、文化の生成と伝達、社会的意思決定、社会構造と心理の関連といった理論研究から、社会問題の解決や公共的意思決定といった実社会対応型まで、幅広い研究を行っています。



●行動科学研究室

社会学講座

社会がどのような構造をもちどう変化しているかを個人との関係から記述し因果的に説明すること、どのような社会を目指すべきかを規範的に構想すること、これらの基礎となるデータを社会調査によって正確に収集し分析できること、を目指しています。そのため大学院生は、各自の関心を中心としながら、社会学の古典的な理論から最新の仮説まで、質的・量的な社会調査法とともに幅広くそして深く学びます。海外の大学への留学を支援するとともに、必要に応じて専門社会調査士資格を取得できる体制を整えています。



●社会学研究室

地域科学講座

地域科学講座では、現代社会が抱える多様な問題について、人間社会と自然環境の両面から総合的に研究を進めています。地域社会学・人文地理学・社会生態学という分野を基軸として、「地域の視点」に立った現場での調査を実施し、互いに議論を交わすなかで、「地域」の理解と考察を深めます。各分野の基礎的理論からフィールドワークの技法、分析法、実社会への応用までを、野外実習を交えながらマン・ツー・マンで指導することで、自分で問題を発見し、自分で調べ、解決策を探るという社会で必要とされる能力の養成を目指しています。



●地域科学研究室

心理学講座 心理学研究室

心理学研究室では、感覚・知覚、注意、記憶、学習、発達、脳科学、音楽、魅力などに関するオリジナルな実証研究を各学生が計画・遂行し、その成果を論文として発表できるような研究者や、その過程で身につけた技能を職場で生かせるような人材を育成するための指導体制を整えています。

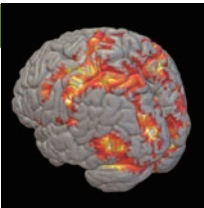
Lab.letters 教員からのメッセージ

小川 健二 准教授

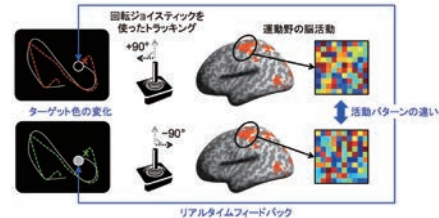
OGAWA Kenji

研究内容

ヒトが巧みな身体運動を学習したり、他者の行為を認識する脳内メカニズムについて、行動実験や機能的核磁気共鳴画像（fMRI）などの脳機能計測法を使って解明しています。



▲fMRI等の科学技術の進歩にともない認知神経科学の研究は急速に発展している。



▲最新の研究では、「ニューロフィードバック」を使うことで、効果的な運動学習（例えば複数の回転変換への同時適応）ができる可能性を探っている。

情報科学の手法を駆使して 心を生み出す脳の仕組みを解明

認知神経科学とは、ヒトの心のはたらきを脳の神経活動から説明する学問分野です。この研究室では、心の営みという極めて文系的なテーマに対し、心理物理実験や機能的核磁気共鳴画像法（fMRI）などの脳機能イメージングに加え、機械学習や多変量解析などの情報科学の手法を用い、脳の仕組みや情報表現の解明に取り組んでいます。現在、特に関心を持っているテーマは運動学習と社会認知。観察した他者の行動を、自分が行なっているかのように映し出す「ミラーシステム」や、運動中の脳活動をリアルタイムで本人にフィードバックする「ニューロフィードバック」など、身体性に基づいた認知と脳の関連性を掘り下げたいです。

心理学・脳科学のノウハウを吸収 トップアスリートも研究テーマに

北海道大学の心理学講座は心理学と脳科学にまつわる様々な研究ノウハウを持っている先生方が揃い、さらに総合大学の強みとして医学部や各機関との連携といった学部横断的な研究を可能にする環境を持っています。

他方、心理や脳に関心を寄せる学生の中には“世界でトップクラスのサッカー選手は自分が走っているフィールドを鳥瞰的に見ることができる”という説を脳科学的に検証したい、と自分なりのテーマを設定した学生もいます。まだまだ「わからないことだらけ」の分野ですので研究テーマは自分次第。このサッカー選手の例も私には思いもつかないものでしたので、今後皆さんがどんなテーマを見出すのか非常に楽しみに待っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

安達 真由美 教授 ADACHI Mayumi

■研究分野
音楽心理学(聴取、演奏、感情、発達)

川端 康弘 教授 KAWABATA Yasuhiro

■研究分野
認知心理学(色覚、感性、知識、熟達)

河原 純一郎 教授 KAWAHARA Jun-ichiro

■研究分野
認知行動科学(注意、記憶、魅力、ストレス、広告、産業応用)

和田 博美 特任教授 WADA Hiromi

■研究分野
発達神経行動毒性学

小川 健二 准教授 OGAWA Kenji

■研究分野
認知神経科学(特に運動学習や社会認知)

金子 沙永 准教授 KANEKO Sae

■研究分野
知覚心理学(とくに視覚、錯視)

森本 琢 助教 MORIMOTO Taku

■研究分野
認知心理学
(クロスモダルな情報処理過程、記憶、心的イメージ)

行動科学講座 行動科学研究室

行動科学研究室は、社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・比較認知科学・神経科学など人間・社会科学諸領域の理論と方法を融合させ、人や動物の心と社会との相互影響過程に関する先導的研究に取り組みます。専門に特化した内容はもちろん、指導教員以外にも深く幅広く学べる教育体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

大沼 進 教授

OHNUMA Susumu

研究内容

環境問題の協力行動促進や合意形成・公共的意思決定のプロセスデザイン。



▲札幌市第2次環境基本計画策定時の市民参加ワークショップ風景。



▲合意形成を巡るゲーミング：役割になりきって交渉する。

ごみ処理から目指す社会像とは？ 合意形成に至るプロセスを重視

私の現在の研究キーワードは「大規模社会における協力の実現」です。ごみ有料化を例に挙げると、「有料が是か非か」だけを問うのではなく、ごみ処理を通じて目指す理想の社会像や問題意識を市民が共有できているかを考える。広報の方法やディスカッションの場づくりなど、さまざまな個人で構成される集団が「合意形成」に至るまでのプロセスを重要視しています。

研究の手法は実際にごみステーションに足を運んだりする現地調査と、大人数でのロールプレイングゲームを教室に再現する実証実験の二本立て。双方向からアプローチする社会心理学ならではの面白さがあります。

国際色豊かな研究者たちの クロスロードで大きく成長

一つとして同じものがない社会の現場にはそれぞれのセオリーがあります。これまでの研究を通じて“いいセオリーはどの現場にも通じる”ことがわかり、どの現場にも耐えられるセオリーこそが本物であると確信しています。もちろん何が本物かはそう簡単には見えてこない。“わからないを楽しむ”好奇心で日々現場と向き合っています。

行動科学講座は、若手からベテランまで国際色豊かな研究者たちが文系／理系の壁を乗り越えて行き交う学際研究のクロスロード。互いに忌憚らない意見交換で刺激しあう伝統が息づいています。アンビシャスな研究者には幸せな環境であり、“世界に通じる人材育成”を有言実行しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

大沼 進 教授 OHNUMA Susumu

■研究分野
環境社会心理学、リスクガバナンス

高橋 伸幸 教授 TAKAHASHI Nobuyuki

■研究分野
社会心理学、実験社会科学

結城 雅樹 教授 YUKI Masaki

■研究分野
社会心理学、文化心理学、社会生態心理学

高橋 泰城 准教授 TAKAHASHI Taiiki

■研究分野
行動科学、神経経済学

瀧本 彩加 准教授 TAKIMOTO Ayaka

■研究分野
比較認知科学

竹澤 正哲 准教授 TAKEZAWA Masanori

■研究分野
社会心理学、適応的意思決定、文化進化論

中島 晃 助教 NAKAJIMA Akira

■研究分野
応用統計学

社会学講座

社会学研究室

社会学研究室では、現代宗教・アジア地域社会・ウェルビーイングなどに関する研究、社会的排除・福祉や医療・質的調査法に関する研究、社会階層・学歴・家族・労働市場などの社会的不平等に関する研究、社会運動・ナショナリズムに関する研究を行っています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

伍 嘉誠 准教授

NG Ka Shing

研究内容

香港における社会運動と市民団体（特に宗教団体）との関係について研究しています。また、近年東アジアにおけるナショナリズムの現象についても大変興味を持っています。



▲2019年にアメリカ研修旅行を引率。NYの雑貨店で見つけたブリキ看板のメッセージが気に入り、購入した。



▲研究室の棚に並ぶ関連本。2020年はオンライン・インタビューで現地の声を聞き取っている。

コロナマスクに立ち上がった
香港市民が教えてくれること

香港で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されたのは、2020年1月23日のことでした。政府の対応は早く、その2日後に「緊急事態」を発出します。その一方で2019年6月から始まった反政府デモを受けて、政府は同年10月に集会参加時のマスク着用を禁止する「覆面禁止法」を発表していたため、コロナ対策のためのマスク着用の呼びかけやマスク工場の開設は、市民有志が自発的に行う動きが広がりました。

こうした香港の例から見ると市民社会の力や社会運動、ナショナリズムを考えることは、自分たちの国や地域で起きているさまざまな問題の解決につながるヒントを秘めており、足元の暮らしと世界が地続きであることを教えてくれます。

北大充実の支援制度を活用
“めがね”をかける社会学

院生時代の5年間を北海道大学で過ごした私にとって、この緑の札幌キャンパスは第二の故郷のようなもの。文学院の「共生の人文学プロジェクト」の旅費支援や論文の日本語添削を何度も活用し、海外の学会参加や論文提出をバックアップしてもらいました。

院生当時、尊敬する櫻井義秀先生から教わった、社会学で一番大切なことは視点です。研究対象をどういう視点で見つめるかで浮かび上がってくるものが変わり、実際、私自身も日本に来て出身地である香港と距離を置くことで、より客観的に香港社会を観察できるようになりました。これから社会学を学ぶ皆さんもぜひ、いろんな“めがね”をかけて、気になる問題を注視してってください。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

地域科学講座

地域科学研究室

地域科学研究室では、フィールドワークを主体として現代社会が抱える多様な地域問題について取り組みます。地域社会学・人文地理学・社会生態学という分野をベースとして、多面的・学際的な議論を交わすなかで社会や環境への理解と考察を深め、問題の解決を図ります。

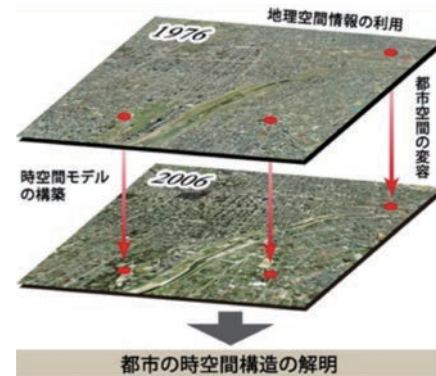
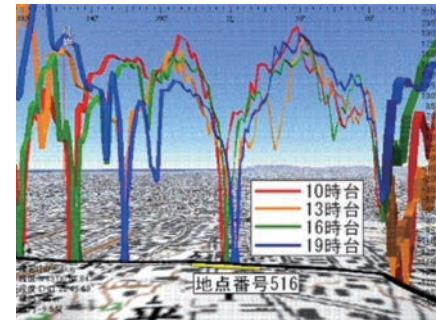
Lab.letters 教員からのメッセージ

橋本 雄一 教授

HASHIMOTO Yuichi

研究内容

都市の社会経済活動に関する時空間構造をGIS援用して解明する研究を行っています。特に、積雪寒冷地における生活環境の季節差に注目して分析を進めています。



▲自動車の速度を可視化したデータベース（2004年札幌市内で計測）。気象状況と自動車の走行状態、ドライバーの運転行動の関連性が見えてくる。

地理空間情報から暮らしを知る
大都市圏の時空間構造を明らかに

地理学と聞くと苦手意識を持つ方もいるかもしれませんが、その実体は私たちが住まう地域や暮らしを見つめる身近な学問であるということに気づいているでしょうか。例えば東京を考えると、あれだけ人口が密集しているメガシティがどうやって形成されていったのか、そんな素朴な疑問から私の大都市圏研究が始まりました。大都市圏の時空間構造を明らかにするプロジェクトとして、工学研究院、理学研究院、農学研究院などの共同研究も行っています。工学研究院との共同研究では、札幌市を対象にGIS（地理情報システム）と衛星測位を用いた道路交通管理システムの開発に取り組みました。

これまで指導した学生の中には、冬期における札幌市内の避難所に対する収容人数の不足を指摘した研究が学会で高く評価された先例もあります。地場に密着した取り組みがいのあるフィールドが北の大地に広がっています。

産学官連携の中心拠点
社会還元のやりがいを励みに

当研究室は、GIS（地理情報システム）に関する産学官連携の中心拠点としても活動しています。社会が求める声に応え、自分たちの研究成果を地域社会に還元していけるやりがい、次の研究の励みにもなっています。また、実験を通じて情報を収集・分析し結果を導き出す知のトレーニングは、どの職場に立った時でも役立つ要素です。文系、理系の枠組みに縛られることなく、地理、暮らし、社会の仕組みなどに関心がある方はぜひ当研究室の扉を叩いてみてください。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

櫻井 義秀 教授 SAKURAI Yoshihide

■研究分野
宗教・文化社会学、タイ地域研究、東アジア宗教研究、ウェルビーイング研究

樋口 麻里 准教授 HIGUCHI Mari

■研究分野
社会的排除論、福祉・医療社会学、家族社会学、国際比較、社会調査法

平澤 和司 教授 HIRASAWA Kazushi

■研究分野
社会学（特に教育、家族、社会階層）

清水 香基 助教 SHIMIZU Koki

■研究分野
宗教社会学、主観的ウェルビーイング研究、価値意識の研究

伍 嘉誠 准教授 NG Ka Shing

■研究分野
ナショナリズム研究、社会運動論、宗教・文化社会学、東アジア研究

教員紹介

池田 透 教授 IKEDA Tohru

■研究分野
保全生態学、侵入生態学（外来種管理）、野生動物管理学、ニュージーランド地域研究、社会生態学

笹岡 正俊 准教授 SASAOKA Masatoshi

■研究分野
環境社会学、ポリティカル・エコロジー論、インドネシア地域研究

橋本 雄一 教授 HASHIMOTO Yuichi

■研究分野
都市地理学、地理情報科学（GIS）

林 琢也 准教授 HAYASHI Takuya

■研究分野
経済地理学、観光地理学、農村地理学

宮内 泰介 教授 MIYAUCHI Taisuke

■研究分野
環境社会学、地域社会学、開発社会学

立澤 史郎 助教 TATSUZAWA Shirou

■研究分野
保全生態学、環境教育論、シベリア地域研究



「高校生の頃から文系で歴史や政治、地理が好きでしたが、それらの科目が社会学という学問と緊密に関わっていることを知ったのは大学を卒業してからでした。」

なぜ人々は信じるのか 宗教社会学という視点で観察

人間科学専攻 社会学研究室 修士課程2年

段 玉 *DUAN Yu*

日本文化や東アジアの社会変動への関心から
宗教社会学の扉を開いた段さん。
コロナ禍の下、初のフィールドワークを終え、
修士論文の執筆に取りかかっています。

OBの勧めと教員の著書、雪国への憧れで札幌一択

中国・広州にある華南理工大学の外国学部日本語学科を卒業した2019年に日本の大学院進学を目指して来日しました。当初は金融ブームの影響も受け、学部時代に副専攻だった金融関連の研究室に進学しようと思っていましたが、ご縁があって北大社会学研究室のOBであった日本語学校の先生から社会学の面白さを教わり、現在の指導教員である櫻井義秀先生の著書『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教』を読んで、一気に気持ちが宗教社会学へと傾いていきました。

雪国への憧れがあり、大学3年の時には母と北海道観光に来て札幌キャンパスを歩いた思い出もありました。その時から「いつか北大に通えたら」という思いもあり、他の大学は受験しませんでした。2019年10月に社会学研究室の研究生となり、2020年4月から修士課程で学んでいます。

キリスト教信者の村で一か月間の参与観察

私の大きな関心は「外来宗教であるキリスト教と中国の伝統文化がどのような関係にあるか」です。具体的にはキリスト教が村落社会の、キリスト教が村落社会の互酬性や相互扶助の規範意識、血縁や地縁の絆を再構築する可能性があるのかという研究テーマを掲げ、現在は山西省太原市の農村をフィールドに研究を続けています。

研究手法は参与観察で、キリスト教信者の村と非信者の村二か所に一か月間滞在し、インタビューを行いました。信者の村では入信のきっかけや暮らしの中で宗教が果たす役割を聞き、後者の村では国が農耕用地を買い上げた後の生活への影響を聞き取っています。急速な都市化が進む村落社会におけるキリスト教の役割を明らかにしようと、修士論文にまとめていきます。

PROFILE

1996年中国山西省生まれ。日本のアニメをきっかけに華南理工大学外国学部日本語学科に入学。卒業後の2019年来日し、京都の日本語学校で日本語を学ぶ。北海道大学大学院文学院人間科学専攻の櫻井義秀研究室の研究生を経て2020年4月に社会学研究室の修士課程に進学。



＼ ここをチェック！ /

入試対策

過去問と教員著書の読み込みで不安を解消！

私の場合、日本語と社会学の基礎知識の両方を身につける必要がありましたが、幸い、日本語学校の先生は北大文学院社会学研究室のご出身でしたので研究計画書も見えていただき、丁寧に指導してもらいました。筆記試験対策は文学院のサイトから過去問題をダウンロードし、他には『社会学入門』『社会学の力』『アンビシャス社会学』などの入門書で社会学の基礎知識を勉強し、さらには櫻井先生の著書を参考に宗教社会学に関する専門知識を深めていきました。



京都でお世話になった日本語学校の岳培榮先生

指導教員メッセージ： 櫻井義秀教授より

医療と経済の間にある人生の意味を考える場

段さんのように大学院から社会学を始める人も少なくないと思いますが、社会学的な視点を持つ—具体的には目の前で起きている社会現象を階層論で考えるのか、集団論で考えるのか、複数の切り取り方を自分の中に持つ—には幅広い視点が大切です。

中国は中国特有の宗教政策を打ち出しており、宗教が生活そのものの理念となるような活動は認められていません。にもかかわらず中国のキリスト教は19世紀末から布教が始まり、現在もその信仰が都市や農村各地で続いている。そこが非常に興味深いところです。段さんが調査対象としている農村のような小さいコミュニティが解体ないしは変化する中で、人々の団結や助け合いの精神の維持あるいは再生にキリスト教がどう関わっているのか。修士論文として書きごたえのあるテーマに挑んでいると思います。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて北海道大学は2020年からオンライン授業を導入し、現在は万全の対策をしながら対面授業も復活しています。今、改めて思うことは、我々人類が継続していくものに医療的な生命と経済的な生命があり、その中間にもう一つ、「社会的な生命」が存在すると感じています。学問や文化、宗教はその領域にあり、そこには人生の意味を考える時間と空間が広がっています。この二つの“間”を学生の皆さんに提供するのが我々北大文学院の役目です。中でも社会学はフィールドワークや文献調査など、いろいろな研究手法を駆使して進められる利点もあり、コロナ時代でもできることは確実にあります。



2020年を振り返って

2020年12月16日から3月11日まで中国に一時帰国し、山西省太原市で一か月間フィールドワークを行いました。左の写真は調査先にあった教会です。この間8回のPCR検査と3回の血液抗体検査を行い、心身ともに非常にハードな調査となりましたが、ことあるごとに櫻井先生から私の身を案じてくれるメールをいただき、心から感謝しています。この調査結果の一部を2021年6月の北海道社会学会で発表します。2020年の前半はコロナの影響でステイホームが続きましたが、その間先行研究の文献を集め、北大図書館では中国の図書館にはなかった民国時代の宣教師に関する資料も見つけました。櫻井先生が主催するオンラインゼミで他大学の先生たちと交流することができたのも良い収穫になりました。予想もしなかった研究生活のスタートでしたが、今はできることに取り組み、納得できる成果につなげていきたいです。

※本項は2021年5月現在のデータで構成しています。

研究環境 一人ひとりの学びを応援！

在学生のための情報とアーカイブが充実



文学研究院・文学部・文学部のウェブサイトでは、大学院生や大学院を志す皆さんに役立つ最新情報や、アーカイブを充実させています。セミナー、大学院進学説明会、支援情報などを活用して、研究発表や進路選択に役立ててください。



▲文学研究院・文学部公式Twitterは、研究情報、学内行事など学生向け情報を中心に更新、緊急時の情報共有メディアとしても利用します。

研究情報を中心に発信している公式Facebookもご覧ください。
https://www.facebook.com/Hokudai.Humanities.HumanSciences/

人と情報の交差点エントランスホール



教員著書のほか北大所蔵の美術作品の企画展示もおこなう「書香の森」

文学部・文学部のエントランスには、「書香の森」と名づけた書棚と展示棚を設置しています。各教員の研究の集大成とも言える著書を表示する他、企画展示や教員が自著を紹介する読書会も行います。興味のある本はすぐ近くの文学部図書室内で借りることができます。

常に机が確保できる院生研究室



研究室ごとに「院生研究室」を設置しており、ひとりが一台の机で勉強できるよう十分な設備を整えています。なかには個人ロッカーや個人の本を置ける開放書棚がある部屋も。文学部内で腰を落ち着けて読書、思考、執筆ができると、院生に好評です。学生用PC室も新しくなりました。

質の高い教育を維持



コロナ禍においても、オンライン授業、対面授業に加え、ハイブリッド授業などさまざまな工夫を凝らして学生の学びを保障しています。

きめ細やかな留学支援



文学部・文学部では国際交流に関わる業務、留学生受入、在学留学生の支援などを行っています。また、交換留学に関する情報提供、大学院生・学部生の交換留学の申請手続き支援、協定校への仲介などを行っています。

国際交流担当教員

ラフェイ・ミシェル 准教授

LA FAY Michelle

■研究分野

日本におけるプロテスタントキリスト教、内村鑑三

若手研究者を応援！研究推進室



大学院生の出張旅費支援・校閲費支援の窓口、申請書の書き方セミナー（p.07-p.08）等各種セミナーの企画実施のほか、リサーチ・アシスタント（RA）のアウトリーチ支援、若手研究者支援情報の提供など、大学院生やポストドクのみなさんの研究活動をバックアップしています。

関連組織

文学研究院内センター



応用倫理・応用哲学研究教育センター

本センターの目的は、応用倫理、応用哲学、ジェンダー・セクシュアリティ、死生学に関する研究・教育を推進することにあります。2007年4月に「応用倫理研究教育センター」として設置され、応用倫理の研究教育に携わる、国立大学では初の常設機関として活動を開始しました。2008年度よりジェンダー・セクシュアリティに関わる研究教育も活動範囲に加え、2018年度より「応用倫理・応用哲学研究教育センター」へと改称し、新たに「応用哲学」と「死生学」を研究領域に加えることになりました。



北方研究教育センター

北方研究教育センターは、文学研究院が対象とする歴史、文化、言語、芸術、文学、考古、環境など広範な視点から「北方研究」を捉え、研究・教育を進めています。

対象地域は、北海道やロシアをはじめ、北欧、北米、北極にも及び、さまざまな大学や研究機関との共同研究や交流の拠点となっています。また、雑誌『北方人文研究』の発刊、シンポジウムや研究会などの企画・運営を行っています。

学内共同施設



社会科学実験研究センター

社会科学実験研究センター（CERSS）は、先進的な社会科学実験を展開する日本唯一の専門機関であり、国内外の主要研究拠点と連携するハブとしての役割を担っています。心理学・認知科学・脳科学と、経済学、法学、政治学を含む社会科学諸分野との接合を図ると同時に、当該分野における若手人材の育成、研究成果の国内外への発信を行い、社会科学実験に関する研究・教育の発展に寄与しています。

人間知・脳・AI研究教育センター

人間知・脳・AI研究教育センターは、新しい「人間知」の創成という理念のもと、数千年来の知の伝統を受け継ぐ人文社会科学と、急速に進展しつつある脳科学（神経科学）・人工知能（AI）の知が高度なレベルで融合する文理融合型研究・教育を行うセンターです。脳科学（神経科学）とAI研究の急速な進展により、旧来人文社会科学が扱ってきた「人間」への問いが新たな仕方でも学際的に問われ始めています。本センターは、この挑戦に応え、文理の境界を超えた先端的研究のプラットフォームを作ることを目指します。国内外から最先端の研究者を招聘して行うサマースクール・ウィンタースクールを中心に、プログラムに所属する大学院生は刺激に満ちた共同研究に参画し、国内外の研究室・企業へのインターンシップを行うことができます。（2019年7月開設）



学生生活

札幌の中心部に緑のキャンパス

北海道大学は札幌の中心部という恵まれた立地にあり、緑豊かなキャンパスが広がっています。交通網の要であるJR札幌駅からも徒歩圏にあり、通学にも便利です。大学周辺は学生街として発展しています。大学の関連施設は、130年に及ぶ知の探求の歴史を伝える総合博物館や、市民の憩いの場としても親しまれている植物園、交流の場を創造するコンベンション施設やセミナーハウス、山小屋など。道外には東京オフィスがあり、出張や就活時の拠点として活用されています。海外ではソウル（韓国）、北京（中国）、ハノイ（ASEAN、ベトナム）、ポートランド（北米、アメリカ）、ヘルシンキ（フィンランド）、モスクワ（ロシア）、ルサカ（ザンビア）、タイリエゾンオフィス、インドネシアリエゾンオフィス、フィリピンリエゾンオフィス、中国北京リエゾンオフィスの11か所に海外拠点を設置しています。海外オフィスでは、留学希望者への情報提供、留学実現に向けての具体的な手続きの支援を行っています。



大学寮や保育施設も利用可能

北海道大学には男女学部生と男子大学院生用^{ひいてきりょう}に恵迪寮、女子学部生と女子大学院生用^{そうせいりょう}には霜星寮があります。他に札幌市内に公・私設寮が10カ所以上あり、北海道大学生協同組合では下宿・貸間・寮等の紹介も行っています。外国人留学生に対しては、6か所の留学生用宿舎があります。また、学内には札幌市認可保育園「子どもの園」と事業所内保育所「ともに」の2カ所の保育施設があります（定員の空き状況により入所できない場合があります）。

困ったり悩んだりした時には

北海道大学の「学生相談総合センター」では修学、進学、就職などの進路相談に加え、家庭や友人関係などの個人的な問題も相談できます。ハラスメントに関することも相談員の先生が常時対応しています。文学院の建物内にも学生相談室があり、週2回相談を受け付けています。「保健センター」では、健康管理のための定期健康診断や健康診断書・健康診断証明書の作成、学生の健康相談および診療を行っています。

課外活動・ボランティア活動

学生の自主活動として文化系53、体育会系67、その他1の公認学生団体があり、分野を超えた交流の場となっています。例年6月の大学祭をはじめ、学内外での体育大会やスポーツイベントもあります。ボランティア活動に関心がある方は「学生ボランティア活動相談室」の活用をおすすめします。

研究に集中できる経済支援

経済的理由により入学科、授業料の納付が困難な場合、入学科、授業料減免の制度を利用することができます。また、各種奨学金制度^{*}や奨励金の機会もあり、研究に集中できるよう経済的に援助する各種支援制度も導入しています。他に大学院生を対象としたティーチング・アシスタント（TA）やティーチング・フェロー（TF）、リサーチ・アシスタント（RA）の制度があり、給与（謝金）を受けながら、教育や研究の補助的作業を通じて教育・研究のスキルを高めていくこともできます。

※参考:日本学生支援機構奨学金貸与月額(2021年度)

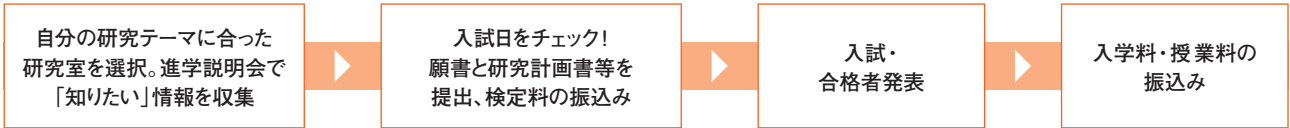
	修士課程	博士後期課程
第一種奨学金	50,000円または88,000円	80,000円または122,000円
第二種奨学金	50,000円、80,000円、100,000円 130,000円、150,000円のいずれか	

DATA

- ▶ 文学院「FAQよくある質問」→北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→[よくある質問]
入試から生活まで幅広いFAQ集
- ▶ 北海道大学「学生生活」北海道大学ウェブサイトTOP→[学生生活]
さまざまな学生生活情報を網羅→<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/>

入試から入学まで

- 入試前に志望する研究室の教員や先輩にコンタクトを取り、研究テーマや方法、入試準備について十分な情報を集めておきましょう。オンラインで行う大学院進学説明会では研究環境の他にも研究計画書の書き方や学生生活など幅広い相談を受けています。
- 入学試験は、博士後期課程、修士課程ともに年2回（9月、2月／修士課程の社会人特別入試は2月のみ）実施しています。詳しい募集要項と過去の入試問題などは文学院のサイトに掲載しています。願書付きの募集要項の請求方法は、ウェブサイトTOPページの[資料請求]をご覧ください。
- 文学院は、一般学生とは別に外国人留学生（修士課程のみ）や社会人の入試枠も設けています。社会人入学に配慮した長期履修制度もあり、入学後のそれぞれの研究スタイルを選ぶことができます。



2021年(令和3年)度実施の入試カレンダー

		2021年						2022年	
		6月	7月	8月	9月	11月	12月	1月	2月
オンライン進学説明会		25日				19日			
修士課程	一般・外国人留学生		21日～29日 出願期間		4日 試験日 17日 合格発表			4～7日 出願期間	5日 試験日 17日 合格発表
	社会人		社会人特別入試の 前期試験はありません					4～7日 出願期間	5日 試験日 17日 合格発表
後博士課程	一般・社会人		12～16日 出願期間		7日 試験日 17日 合格発表			7～13日 出願期間	9日 試験日 17日 合格発表

※修士課程後期試験は、東京試験場でも実施されます。
大学院入試情報 北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→大学院文学院入試情報

社会に扉を開く

[社会人入学(社会人特別入試)]

“社会に開かれた大学院”を目指して修士課程および博士後期課程の入試に「社会人入学(社会人特別入試)」を実施しています。
詳細は、募集要項をご確認ください。

多忙な社会人に配慮した「長期履修制度」

主に時間的制約の多い社会人の修学に配慮したもので、申請条件を満たせば標準の修業年限より長い期間をかけて計画的な履修を認める制度です。
詳細は、北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[文学院]→[長期履修制度]

DATA

- ▶ 検定料:30,000円 入学科:282,000円 授業料:535,800円
(入学科・授業料は改定されることがあります。募集要項で事前にご確認ください)
授業料は前期、後期に分けて払います。また、減免制度、奨学金制度などがあります。
- ▶ 入学状況
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/20201210_gaiyou.pdf (冊子34ページ)
- ▶ 卒業・修了者数(学位授与数)
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/20201210_gaiyou.pdf (冊子35ページ)

MEMO

- ▶ 研究生
特定の専門事項について研究を希望し、一定の条件を満たしている方を「研究生」として受け入れています。
単位を修得したり学位を取得することはできません。
- ▶ 聴講生・科目等履修生
授業科目の聴講または履修を希望し、一定の条件を満たしている方を「聴講生」、「科目等履修生」として受け入れています。
科目等履修生は学期末試験等に合格した場合、教授会の承認を経て、所定の単位を得ることができますが、学位を取得することはできません。

免許・資格

文学院在籍中に中高教員免許状の他、学芸員の資格、専門社会調査士資格、1級考古調査士資格が取得できます。詳しくは入学時に配られる「学生便覧」を参照し教務担当に相談してください。

●教育職員免許状一覧

- (1) 中学校教諭一種免許状〔国語、社会、英語〕
- (2) 高等学校教諭一種免許状〔国語、地理歴史、公民、英語〕
- (3) 中学校教諭専修免許状〔国語、社会、英語〕
- (4) 高等学校教諭専修免許状〔国語、地理歴史、公民、英語〕

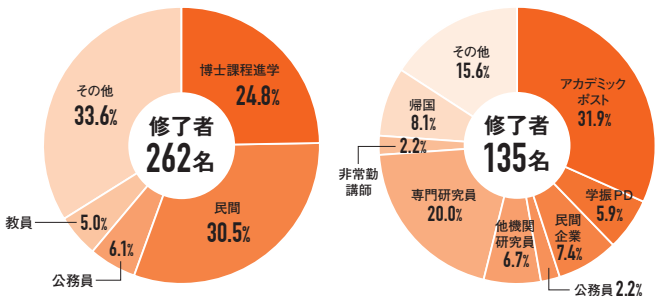
●学芸員 ●専門社会調査士 ●1級考古調査士

進路動向

〈修士課程〉過去3年間の進路

	修了者数	博士課程進学	就職	その他
平成30年度	72人	20人	28人	24人
令和元年度	102人	28人	38人	36人
令和2年度	88人	17人	43人	28人
過去3年間平均	—	24.8%	41.6%	33.6%

※その他の内訳：留学、帰国、文学研究院研究生など。



修士課程 過去3年間の進路

博士後期課程 過去5年間の進路

〈博士後期課程〉過去5年間の進路

※学振特別研究員や専門研究員を経て就職したケースも含む（修了後5年以内）。
※単位修得退学者の進路も含む。

●アカデミックポスト

金沢大学 人間社会学域 准教授、金沢大学 人間社会学域 講師、九州工業大学 教養教育院 講師、近畿大学 経済学部 特任講師、高知工科大学 経済・マネジメント学群 助教、札幌学院大学 経営学部 専任講師、札幌国際大学観光学部 専任講師、札幌大学女子短期大学部 准教授、大東文化大学 社会学部 専任講師、拓殖大学北海道短期大学 助教、東京大学 人文社会系研究科 特任助教、日本大学 国際関係学部 助教、日本大学 文理学部 助手、広島修道大学 法学部 助教、北海道学園大学 工学部 准教授、北海道教育大学釧路校 講師、北海道大学 アイス・先住民研究センター 助教、北海道大学 大学文書館 特任助教、北海道大学 文学研究院 准教授、北海道大学 文学研究院 助教、北海道文教大学 人間科学部 准教授、武蔵野大学 文学部 助教、安田女子大学 心理学部 講師
〈中国〉延边大学 心理学部 専任講師、華中師範大学 文学部 講師、江西財經大學 観光管理学部 専任講師、西安建築科技大学、西安交通大学 外国語学部 講師、浙江伝媒学院、中国海洋大学 外国語学院 講師、中国重慶大学 外国語学院 教員、中国伝媒大学、東北師範大学 外国語学院 講師、寧波財經学院 講師、北京林業大学 外国語学院 専任講師
〈台湾〉国立台北商業大学 管理学院 助理教授
〈タイ〉ナレースワン大学 文学部 講師
〈トルコ〉ボヅック大学
〈北キプロス〉ファイナル・インターナショナル大学 講師
〈バングラデシュ〉ジャハンギルナガル大学

●学術振興会特別研究員（学振PD）

京都大学、国文学研究資料館、東京大学、明治大学、北海道大学

●民間企業

朝日新聞社、FJコンボジット、英会話スクール（講師）、コープさっぽろ生活協同組合、佐勇（通訳）、商船三井キャリアサポート（貿易事務）、スポーツニッポン新聞社、日本入試センター（総合職）、北海道地域農業研究所（専任研究員）

●公務員

札幌芸術の森美術館（学芸員）、北海道滝川高等学校、北方民族博物館（学芸員）

●他機関研究員

Green Foundation（バングラデシュ）、国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター、玉川大学脳科学研究所、中国浙江大学、日本色彩研究所、復旦大学 哲学学院、北海道大学 科学技術コミュニケーション教育研究部門、北海道大学 スラフ・ユーラシア研究センター、北海道大学 大学文書館

●文学研究院専門研究員

●北海道大学キャリアセンター

学生とのコミュニケーションを大切にしながら就職活動をバックアップ。就職相談や就活指導、就職情報の配信ほか、公務員受験や教員採用試験も応援しています。

修士課程修了生の就職先 過去3年間

官公庁	学術研究、専門・技術サービス業	情報通信業	卸売業・小売業
茨城県庁 会計検査院 札幌市役所 斜里町役場 北海道庁 北海道労働局 文部科学省	アートフロントギャラリー 石川県立歴史博物館 いであ エスネットワークス オレンジガーデン クロス・マーケティング たすきコンサルティング 乃村工藝社 ブレインパッド 北海道博物館 三重県立熊野古道センター 武者小路実篤記念館	NTTデータMSE 共同通信社 グッドフェローズ CLIS 河北新報社 ころから ジュビターテレコム 中国新聞社 ディージェワールド 東京法令出版 トランスコスモス トライアルカンパニー 日光システムソリューションズ 日本電気 日本アイビーエム・ソリューション・サービス 日本放送協会 NetEase Interactive Entertainment ビジネス・アソシエーツ 日立社会情報サービス フォレストック 北海道新聞社 メンバーズ ユーザックシステム	イオンリテール イオンモール 双日 ニトリ ビックカメラ ヨドバシカメラ
教育・学習支援業	サービス業	建設業	金融・保険
大分県内中学校 釧路市立北陽高等学校 行知学園 国際基督教大学高校 埼玉県内中学校 札幌市内小学校 札幌北星学園 秀英予備校 進学会 長野県内高等学校 日本入試センター 北海道内高等学校 北海道内中学校 北海高等学校 宮城県内高等学校 早稲田実業学校	コンベンションリンケージ JTB シンク ZEBEE 総合商研 マーキュリー MAPPA	清水建設 大東建託 立川工務店	内山鑑定事務所 北海道銀行
運輸業・郵便業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	不動産
東日本高速道路 ヤマト運輸	賀茂川啓明電機 日本たばこ産業 富士通	アトックス	上海緑友集団 日立ビルシステム
		その他	
		真宗興正派西教寺 斜里町地域おこし協力隊 中頓別町地域おこし協力隊	

博士後期課程
修了者の声

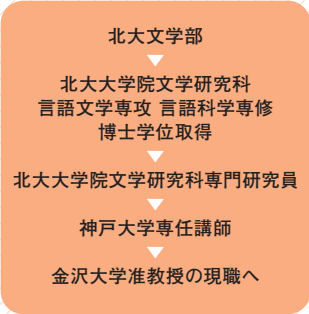
Voices of graduates

多様な言語研究者が集う北大で得た知見が
研究者としての糧に

金沢大学 人間社会研究域 歴史言語文化学系
准教授 西出 佳代 さん [2013年度修了]

第二外国語でフランス語を、第三外国語でドイツ語を履修した私は、もともとのフランス史やドイツ文学への興味から、両言語の接触地域の言語状況やそこで話される言語へと徐々に関心を移していきました。卒業論文でルクセンブルクとルクセンブルク語を扱おうと決めたとき、その研究領域の豊かな可能性に魅了され研究者の道を志しました。理論言語学から記述言語学まで、大言語から少数言語まで様々な専門の研究者が集まる北海道大学という環境は、私に多くの視座を与えてくれました。また、クラーク記念財団や組織的な若手研究者等海外派遣プログラムなどの助成を得て研究に励めたことは、大きな糧となっています。平成28年度には、社会的に高く評価される研究業績を上げ文学研究科の名誉を高めたとして、文学部同窓会より「楡文賞」をいただきました。

北海道大学で得られた広い知見をいかし、現職ではドイツ語学の授業を担当しながらルクセンブルク語の研究を進めています。大学院修了はゴールではありません。常にその先を見据えながら、自分の居場所を確認しつつ前へ進むことが重要ではないかと思っています。



修士課程
修了者の声

Voices of graduates

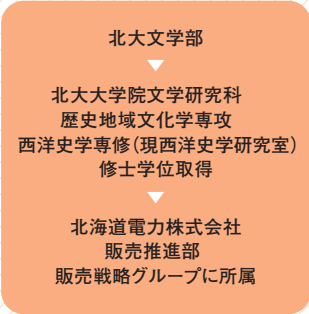
調べ、読み解き、論理的に表現する経験が
販売戦略立案の土台に

北海道電力株式会社 販売推進部 販売戦略グループ
前田 悠太 さん [2013年度修了]

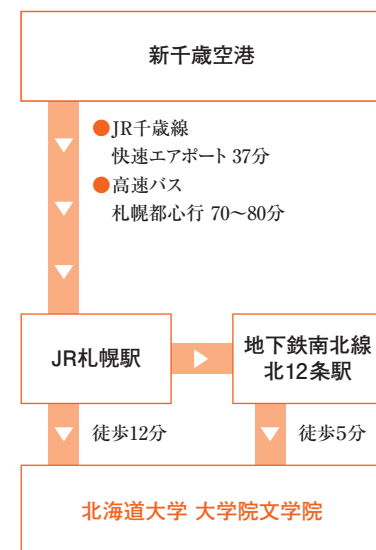
映画「グラディエーター」等を通じて古代ローマ史に関心を持ち、西洋史学研究室を選択しました。学部時代に「古代ローマの奴隷制」研究に必要な英語や古代ラテン語等の語学力を高め、大学院時代の2年間では研究内容を深めました。

大学院で得た学びは、研究の中で計画的にPDCAサイクルを回して、課題を見抜き、その解決に向けたプロセスを反復することで身に付く論理的な思考力と実践力です。現在はお客さまのご要望にお応えする販売戦略の立案や中長期の販売目標の設定・管理等の業務を担当しており、大学院で培われたこれらの力が大いに役立っています。さらに、インプット力とアウトプット力も鍛えられました。経年劣化により欠損が多い古代ラテン語史料を前後の文脈等から類推し読み解いた経験や、修士論文をロジカルに組み立てた経験が、社内外に向けて資料を作成し、説明を行う場面等で活かされています。

皆さんも研究職と民間企業就職のいずれを選択するかを問わず、人生を送るうえで譲れないポイント・大事にしたいポイントを常に意識し、実りの多い学生生活を過ごしてください。



Access



文学院周辺地図



国立大学法人 北海道大学 大学院文学院

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

連絡先 文学事務部教務担当

電話 011-706-3005 / 011-706-3004 (直通)

URL <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

Graduate School of Humanities and Human Sciences,
Hokkaido University
Kita 10, Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-0810 Japan

○制作・発行 北海道大学 大学院文学研究院
○編集担当 吉開将人、宮園健吾、菅井健太、金子沙永 (広報誌専門部会)
森岡和子、飯塚理恵 (研究推進室)

○企画・編集 株式会社スペースタイム
○デザイン 株式会社デクスチャー
○教員紹介記事構成 佐藤優子 (p.20を除く)

■本誌に掲載されている情報は2021年6月現在のものです。
■本誌の無断複写(コピー)・転載は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

